

倉敷埋蔵文化財 センター年報 13

—平成 21・22 年度—

倉敷埋蔵文化財センター

2012.3

序 文

本書は、倉敷埋蔵文化財センターが平成 21 年度と 22 年度に実施した、発掘調査事業ならびに教育普及事業について、その概要をまとめたものです。

発掘調査事業では、依然として低調な開発事業の影響により、小規模な確認調査や立会調査が主となりましたが、平成 21 年度には、市立第三福田小学校体育館の耐震化工事に伴い、広江・浜遺跡の発掘調査を実施しました。基礎工事により既に破壊を受けていた部分も少なくありませんでしたが、残存部分からは建物の柱穴や炉穴などが見つかり、古墳時代後期の生活跡を確認することができました。

教育普及事業では、発掘調査報告書とセンター年報を刊行し、発掘調査やセンター事業の内容を広く市民の方に公開・周知いたしました。また、主催講座をはじめとする各種講座やイベントなど、歴史や文化財についての理解を深めていただく機会を提供し、多くの方に参加していただきました。直接市民の方と接する講座やイベントは、教育普及事業を実施するうえで効果が高く、今後とも埋蔵文化財センターが果たすべき大きな役割の一つとして、さらに充実したものになるよう、力を入れていく所存です。

本書が、埋蔵文化財保護行政の資料として広く活用されますとともに、多くの市民の方に当センター事業に対する理解と認識を深めていただくきっかけとなれば幸いに存じます。

最後になりましたが、各種事業の実施にあたりまして、ご指導ご協力を賜りました皆様方に厚くお礼申し上げますとともに、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成 24 年 3 月 31 日

倉敷埋蔵文化財センター
館長 鍵谷守秀

目 次

■平成21年度■

I 組織	1
II 事業の概要	1
III 教育普及事業報告	4
IV 調査事業報告	6
板池遺跡確認調査報告	9
城が端遺跡確認調査報告	10
大坪遺跡確認調査報告	11
V 寄贈図書一覧	12

■平成22年度■

I 組織	25
II 事業の概要	25
III 教育普及事業報告	28
IV 調査事業報告	30
稗田城跡確認調査報告	33
真備町200遺跡確認調査報告	35
島地北貝塚確認調査報告	36
広江・浜遺跡発掘調査概要	37
屋敷ノ内古墳確認調査報告	40
新熊野山遺跡発掘調査概要	42
塩生遺跡確認調査報告	44
V 寄贈図書一覧	45

附編 湾戸遺跡出土の須恵器	56
---------------------	----

例 言

1. 本書は、倉敷埋蔵文化財センターが平成21～22年度にかけて行った埋蔵文化財保護行政の概要についてまとめたものである。
2. 本書の執筆は、鎌谷守秀・小野雅明・藤原好二が分担し、調査事業報告についてはそれぞれ文責を記した。全体編集は藤原が行った。
3. 調査事業報告において、調査報告としているものについては本報告をもって正報告とする。
4. 調査地点位置図で使用した地形図は、倉敷市発行の50,000分の1の都市計画図を縮小したものであり、その他の位置図には、倉敷市発行の都市計画図を複製または縮小したものを使用した。
5. 本書に関する実測図・写真・遺物等は、全て倉敷埋蔵文化財センターで保管している。

平成21(2009)年度

I 組 織

埋蔵文化財センターは、文化財保護課の一施設として、市域内の埋蔵文化財に係る業務を一括して担当している。平成21年度における埋蔵文化財センターの組織及び人員は下記のとおりとなっている。



文化財保護課	課 長	浅野 弘文
埋蔵文化財センター	館 長	福本 明
タ	主 任	小野 雅明
タ	学芸員	綾野 早苗
タ	学芸員	藤原 好二

(職名等は平成22年3月31日現在)

II 事業の概要

1 調査事業

- (1) 事前協議 Fax等による埋蔵文化財包蔵地照会は272件と前年度比で15%減少している。開発指導要綱に基づく事前協議は7件である。昨年度から開発指導要綱に基づく事前協議は遺跡に係る可能性のある事案のみ取り扱うこととなったため、この数字となった。このうち2件について文化財保護法に基づく届出が提出された。
- (2) 発掘調査 今年度は確認調査3件、立会調査8件を実施した。確認調査は板池遺跡・城が端遺跡・大坪遺跡において実施したが、いずれも少量の遺物が出土しただけで、遺構などは確認されていない。立会調査は、公共事業に伴うものが1件、民間の開発に伴うものが8件である。民間の開発のうち5件は、宅地造成・住宅建設に伴うものである。上東遺跡の立会調査では、分布図に示された遺跡範囲の外側で弥生時代の溝などが検出され、範囲の再検討が必要となる事例もあった。
- (3) 分布調査 真備町内の小田川以北を中心に調査を行った。昨年度の続きである妹地区から始まり、尾崎・岡田・辻田・市場各地区的143遺跡を踏査した。また、倉敷地区の7遺跡、玉島地区的1遺跡を踏査し、従前の調査の補足を行った。これら計151遺跡の台帳を作成後、パソコンに入力した。
- (4) 整理作業 来年度以降の報告書の作成にむけて、これまでに調査した鶴石鼻遺跡・溝落遺跡等から出土した遺物についての整理・実測作業を行った。

2 教育普及事業

(1) 主催講座等 春の遺跡見学会など、計5回の講座等を実施。延べ参加人数2,093人。

講座・イベント名	実施日	講座内容	参加人数
春の遺跡見学会⑭	5/10（日）	美作の遺跡を訪ねる	38人
ライフパークの集い	8/23（日）	くらしき発掘パネル展	1,941人
秋の考古学講座 「奈良時代の考古学」	10/25（日）	奈良時代の美作国	41人
タ	11/1（日）	備前国分寺の発掘調査	35人
タ	11/8（日）	古代山陽道と駅家	38人

(2) 出前講座等講師派遣 古代の土笛づくり等、計14回の派遣。延べ参加人数665人。

派遣内容	開催日	依頼団体	参加人数
埋蔵文化財について	4/24（金）	倉敷市立赤崎小学校	86人
倉敷市の古代遺跡をさぐろう	4/28（火）	倉敷市立緑丘小学校	63人
博物館学実習	5/13（水）	倉敷芸術科学大学	58人
寿大学講座 「縄文人の食生活を学ぶ」	5/20（水）	玉島公民館	80人
土器づくり	6/16（火）	倉敷市立緑丘小学校	60人
一の口水門の解説	7/4（土）	倉敷人権擁護委員協議会	32人
古代の土笛づくり	7/26（日）	ボーイスカウト倉敷16支団	50人
古代の土笛づくり	7/29（水）	真備図書館	30人
埋蔵文化財について	9/16（水）	玉島ロータリークラブ	26人
郷土史講座「瓦の歴史」	10/17（土）	真備図書館	8人
古代の勾玉づくり	11/17（火）	倉敷ふれあい教室	14人
王墓の丘史跡公園案内	2/2（火）	倉敷市立庄小学校	58人
歴史講座 「楯築弥生墳丘墓とその時代」	3/14（日）	岡山県立吉備路郷土館	50人
サンデー俱楽部 「古代の勾玉を作ろう」	3/14（日）	市民学習センター	50人

(3) 報告書等の刊行

倉敷埋蔵文化財センターワン報12

A4判 本文58P 600部 平成22年3月刊行

(4) 資料の貸出

貸出期間	資料名	貸出先	使用目的
1 4月1日～3月31日	日畠庵寺出土軒丸瓦 1点 矢部奥田遺跡出土 貝類・敲石他 一括 矢部堀越遺跡出土 特殊器台形埴輪 1点	岡山県立 吉備路郷土館	常設展示
2 6月3日～6月30日	秦原庵寺出土軒丸瓦 カラースライド他3点	(株)吉備人出版	『考えながら歩く吉備路(下)』に掲載
3 6月12日～7月31日	日畠出土古錢 カラースライド1点	(株)浜島書店	高校世界史資料集に掲載
4 7月8日～3月31日	矢部堀越遺跡出土 特殊器台形埴輪 1点	岡山県立博物館	平成21年度特別展 「土と火のオブジェ」

3 利用者数

展示・講座等を含めた平成21年度の利用者数は下表のとおりである。総利用者数は14,364人で、昨年度比約20%の大幅減となった。これは派遣職員の減員によって、主催講座等の企画が十分できなくなつたことも要因の一つであると考えられる。

〈平成21年度月別利用者数〉

月	大人	子ども	講座等	計	開館日数	1日平均利用者数
4	478	680	153	1,311	25	52
5	562	684	176	1,422	26	55
6	398	530	62	990	25	40
7	688	706	112	1,506	26	58
8	1,522	1,945	28	3,495	26	134
9	318	640	26	984	24	41
10	372	1,043	49	1,464	26	56
11	455	227	87	769	23	33
12	138	129	5	272	23	12
1	325	404		729	23	32
2	287	272	56	615	23	27
3	339	468		807	25	32
合計	5,882人	7,728人	754人	14,364人	295日	49人

III 教育普及事業報告

1 春の遺跡見学会⑭

～美作（津山市）の遺跡を訪ねる～

日 時 平成21年5月10日（日）

講 師 小野雅明（倉敷埋蔵文化財センター）

対 象 一般

参加者 38人

美作地方の中心地である津山市内の遺跡をめぐる見学会を開催した。はじめに訪れた美和山古墳群では当方最大の前方後円墳、美和山1号墳を見学し、眼下に広がる津山盆地の地形を観望した。周辺の円墳も史跡公園として保存整備されており、墳丘の大きさや葺石を確かめながら園路を歩いた。弥生集落跡として有名な沼遺跡では、発掘復元された竪穴住居、長方形建物、倉庫といった建物群を目の前にして、当時の生活のようすや社会のありかたについて想像を膨らませた。津山弥生の里文化財センターを見学した後、午後からは当方最古級の前方後円墳である日上天王山古墳を訪れ、発掘調査の成果と照らし合わせながら古墳の細部を観察。同じ丘陵上にある古式群集墳の日上歛山古墳群では、多くの円墳が互いに接するようにして築かれている光景に目を見張った。最後の見学地である美作国分寺跡では、金堂、講堂、塔などの建物の位置を現地で確認し、国分寺式の伽藍配置を採用すること、瓦の文様が当時の都のものに酷似することなどから、美作国が、備前国、備中國とは異なり、中央と深い結びつきをもっていたことを理解した。



2 ライフパークの集い

～くらしき発掘パネル展～

日 時 平成21年8月23日（日）

会 場 埋蔵文化財センター「遺物整理室」

対 象 一般

参加者 1,941人

夏休み恒例のイベント、「ライフパークの集い」の催し物として「くらしき発掘パネル展」を開催した。市内で行われた発掘調査を写真パネルと出土遺物で紹介するもので、王子が岳南範遺跡、船倉貝塚、勝負砂古墳、二万大塚古墳などの遺跡をとりあげた。また、上東遺跡出土の弥生土器、海上がりのイイダコ壺、寒田窯跡群4号出土の須恵器など倉敷市の歴史を特徴付ける遺物を展示し、多くの人々に見学していただいた。



3 秋の考古学講座

奈良時代の考古学—遺跡が語る国家整備—

日 時 平成21年10月25日・11月1・8日(日)
講 師 第1回 小林利晴(奈良県古代吉備文化財センター)
「奈良時代の美作国～美作国府の発掘成果～」
第2回 有賀史史(赤磐市教育委員会)
「備前国分寺の発掘調査」
第3回 大橋雅也(岡山県古代吉備文化財センター)
「古代山陽道と駅家～発掘調査が語るもの～」
会 場 ライフパーク倉敷「視聴覚ホール」
対 象 一般
参加者 114人(延べ人数)

今回は、日本が国家としての体裁を整えていく奈良時代をテーマとし、岡山県内の遺跡調査事例を中心に講座を実施した。平成22年度に奈良県の平城京遷都1300年を控えてのタイムリーな企画となった。

第1回は小林利晴氏による講演で、美作国府の発掘調査成果を中心に、奈良時代の美作国についてお話をいただいた。郡衙や寺院、道路などについても詳細な説明が行われ、また、奈良時代の集落跡を調査成果に基づいて分析し、国府との関係に根ざしたその性格を解明するなど、興味深い内容であった。

第2回は有賀史氏による講演で、奈良時代の国分寺周辺の歴史的環境の解説、発掘調査事業の推移から始まり、調査の経過がスライドを交えて丁寧に説明された。調査によって、国分寺の伽藍変遷過程が明らかとなり、そこに律令制下の中央と地方の関係を読み取ることができるといった意見が紹介された。

第3回は大橋雅也氏による講演で、古代山陽道と付随施設である駅家の解説をいただいた。「古代駅伝制」などやや難解な制度の話をわかりやすく解説され、古代の道路が整えられていく様子を伺うことができた。特に、県内の古代山陽道推定地における駅家の位置を、実際の発掘調査事例や遺跡の採集遺物、あるいは立地を通じて推定していく作業は、受講生の関心を集め、道路という地味な遺跡の解説であるにもかかわらず、好評を博した。



IV 調査事業報告

平成21年度調査一覧表

No.	遺跡名	該当地	調査原因	区別	調査期間	調査結果
1	平辻貝塚	連島町連島	携帯電話無線基地局建設工事	立会	09.04.01	遺物・遺構なし
2	上東遺跡	上東	宅地造成工事	タ	09.04.16	弥生土器片・須恵器溝状遺構・Pit
3	山の鼻遺跡	藤戸町天城	下水管埋設工事	タ	09.05.09	遺物・遺構なし
4	山の鼻遺跡	藤戸町天城	宅地造成工事	タ	09.05.13	タ
5	板池遺跡	児島柳田町	宅地造成工事	確認	09.06.11	中世土器片
6	相引池遺跡	広江・福江	ガス導管敷設工事	立会	09.06.18	遺物・遺構なし
7	才楽遺跡	日畠	住宅建設工事	タ	09.06.22	タ
8	上東遺跡	上東	浄化槽埋設工事	タ	09.08.31	弥生土器片・Pit
9	城が端遺跡	粒江	宅地造成工事	確認	09.10.20	サヌカイト・須恵器片
10	大坪遺跡	串田	墓地造成工事	タ	09.10.21	サヌカイト製石匙
11	才楽遺跡	日畠	住宅建設工事	立会	09.10.27	遺物・遺構なし



調査地点位置図 (S=1/100,000)

いたいけ
板池遺跡確認調査報告 (一覧表 No.5)

調査位置 児島柳田町236番1

調査原因 宅地造成工事

調査面積 8m²

調査期間 09.06.11

調査担当 小野・藤原

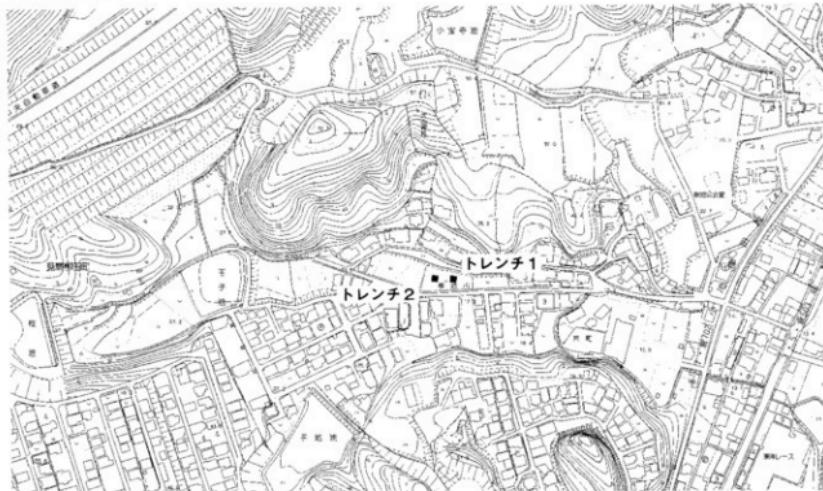
遺跡の概要 板池遺跡は、倉敷市児島柳田町字板池に位置する。調査対象地は、西から東に向かって開く谷状地形の南斜面に拓かれた水田で、南側を板池川が東流する。当該地を含めた周辺の耕作地あるいは荒蕪地の地表面に中世土器片の散布が認められることから、板池遺跡は中世の散布地として周知されている。

調査の概要 確認調査は、開発予定区域の2か所に 2×2 mのトレンチを設定し、断面観察を中心に行った。開発予定区域の中央や東寄りに設定したトレンチ1の層序は、耕作土、灰黄色土、明黄褐色土、灰黃褐色土となっている。これらの層には中世土器の細片がわずかに含まれるが、遺構は確認されていない。

開発予定区域の西寄りに設定したトレンチ2の層序もトレンチ1と同様で、耕作土・床土、灰黄色土、明黄褐色土、灰黃褐色土となっているが、いずれの層からも遺物は出土しておらず、遺構は確認されていない。

以上のように、今回の確認調査では遺構、遺物包含層は認められなかった。調査対象地は斜面に拓かれた水田であり、開墾の際に耕作地を水平にするため、斜面上位で切り崩した土を下方に運んで整地されていることが想定される。おそらく、耕作土の下の土層は斜面上位から押し出された整地土であり、当該遺跡は開墾によって広範囲に破壊されている可能性がある。

(小野)



トレンチ位置図 (S=1/5,000)

じょうがはな
城が端遺跡確認調査報告 (一覧表 No.9)

調査位置 倉敷市絞江字船元2033番1

調査原因 宅地造成工事

調査面積 8m²

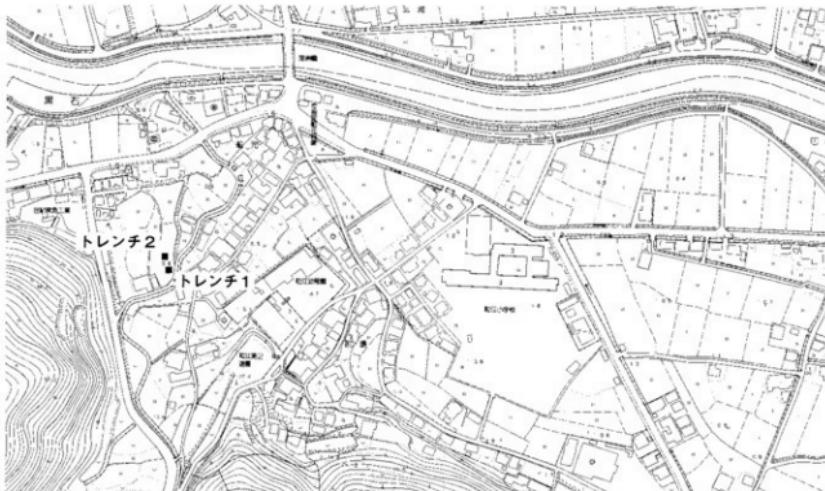
調査期間 09.10.20

調査担当 小野・藤原

遺跡の概要 城が端遺跡は、倉敷市街地の南方にある種松山山塊の北裾に立地する。近世の干拓以前には瀬戸内海に浮かぶ孤島であった吉備児島の北西岸に位置する海浜遺跡である。平野との比高差は5~6m程度で、西側には小さな谷をはさんで縄文時代の船元貝塚が存在する。昭和52年(1977)に倉敷考古館による発掘調査において古墳時代の製塩遺跡、中世貝塚、中世火葬墓、近世土葬墓が検出され、遺跡の性格が明らかとなった。

調査の概要 今回の確認調査は、昭和52年の調査地の北東約100mの地点で実施した。開発予定地のほぼ中央、合併浄化槽予定地に2×2mのトレンチ1、開発予定地の北西隅に2×2mのトレンチ2を設定した。土層観察によると耕作土、床土の下には、両トレンチとも黄灰色砂質土がみられ、この層からサスカイト、須恵器細片が少量出土した。その下の状況は、トレンチ1では黒褐色粘質土、灰色砂礫層が確認され、トレンチ2では灰色砂礫層のみが確認された。黄灰色砂質土以下の各層は東に傾斜しており、谷地形の斜面堆積を示すものと思われた。灰色砂礫層の掘り下げ途中で湧水が激しくなったため掘削を断念し、調査を終了した。

以上のように、今回の調査では開発予定地から遺構、遺物包含層は確認されなかった。床土直下の黄灰色砂質土からわずかに遺物が出土したが、周辺からの流れ込みと考えられる。当該地のすぐ東は谷筋であることから、土地利用の頻度の低い場所であったと判断される。 (小野)



トレンチ位置図 (S=1/5,000)

おおつば
大坪遺跡確認調査報告 (一覧表 No.10)

調査位置 倉敷市串田481番1、481番2

調査原因 墓地造成工事

調査面積 8m²

調査期間 09.10.21

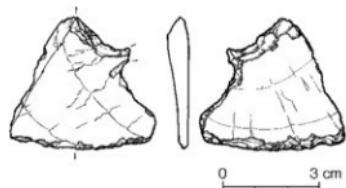
調査担当 小野・藤原

遺跡の概要 大坪遺跡は串田の西方寺からその東側の集落一帯にかけて存在する遺跡である。西側の谷筋からの流れが形成した小扇状地に立地しており、岡山県教育委員会がおこなった分布調査によってサヌカイト・須恵器・中世土器片などが採集されている。西方寺のすぐ裏山山頂には軍記物にも登場する鼻高山城跡が存在し、東側山麓には五輪塔群も散在している。周辺に「侍屋敷」などの文字も残り、中世の居館跡の存在も推定される。2004年度には、農道改良工事に伴う立会調査が行われ、わずかだが土師質土器片を採集している。

調査の概要 調査地は西方寺の北側にある中池の西岸、標高25m程の地点である。以前は水田であったようであるが、現在は耕作されていない。調査は墓地造成予定地に2×2mのトレンチを2か所設定し、地層の断面観察を中心に行った。

計画敷地内の南よりにトレンチ1、北よりにトレンチ2を設定した。両トレンチとも層位は基本的に同じである。旧耕作土直下に堆積した灰色土、明黄褐色土は非常にかたくしまっており、造成土ではないかと推定される。その下は、トレンチ1では鈍い黄褐色土で上層にはマンガン分が多く沈着しており、下層はやや粘質で水が湧く層である。トレンチ2では三層に分離でき、上層は鈍い黄褐色土でマンガン粒を多く含んでいる。その下は小謫を含む灰黄褐色土で、石匙1点が検出された。最下層は鈍い黄褐色土である。これらの層は比較的均質な土が厚く堆積しており、扇状地を形成する自然堆積層と考えられる。出土した石匙はサヌカイト製で長さ4.13cm、幅4.52cm、厚さ0.72cm、重さ10.6gである。正三角形の一辺につまみが付く形状をしているが、つまみは欠失している。縄文時代に属するものと考えられる。遺構は確認されなかった。

今回の調査の結果、中池の西岸には扇状地を形成する自然堆積層が厚く形成されていることが判明した。この堆積層中から石匙1点が確認されたことにより、付近に遺跡が存在したことは間違いないが、すでに流失してしまっていると考えられる。(藤原)



石匙 (S=2/3)



トレンチ位置図 (S=1/5,000)

V 寄贈図書一覧 (2009.4.1 ~ 2010.3.31)

青森県	西高校遺跡 史跡垂柳遺跡発掘調査概要報告書 (13)
青森県教育委員会	
田舎館村教育委員会	
岩手県	堀野遺跡群 (馬場地区)、前小路遺跡V、諫訪前遺跡、史跡九戸城跡-平成15年度史跡九戸城跡環境整備事業発掘調査略報告-、史跡九戸城跡-平成16年度史跡九戸城跡環境整備事業発掘調査略報告-、在府小路遺跡VI、在府小路遺跡VII、在府小路遺跡X I・八幡平遺跡
二戸市埋蔵文化財センター	
山形県	埴文やまがた第43号・第44号 米沢市文化財年報No.21、遺跡詳細分布調査報告書第22集
(財) 山形県埋蔵文化財センター	
米沢市教育委員会	置賜地域の終末古墳2、高安窓塚群C地区第1次発掘調査報告書、歴史遺産研究No.4、佛向寺の墓標調査報告書-天童市域における墓標の成立と展開-
東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科	北田2遺跡発掘調査報告書、村東遺跡発掘調査報告書
酒田市教育委員会	
福島県	玉山古墳 まるさんかくしかく創刊号・第2号 若松城郭内武家屋敷跡 望月新兵衛・千葉推動邸跡
(財) いわき市教育文化事業団	
(財) 郡山市文化・学び振興公社	
会津若松市教育委員会	
茨城県	埋蔵文化財部 年報28 土浦市立博物館紀要 第19号、古代の筑波山信仰・内海をめぐる祭祀の源流 上高津貝塚ふるさと歴史の広場年報第14号、よみがえる古代の信太郎 筑波大学先史学・考古学研究第20号 ニュースレター vol.8
(財) 茨城県教育財團	
土浦市立博物館	
上高津貝塚ふるさと歴史の広場	
筑波大学 歴史・人類学専攻	
筑波大学 世界遺産専攻	
埼玉県	埋文さいたま第53号 市内遺跡発掘調査II、中沢遺跡第12地点発掘調査報告書
(財) 埼玉県埋蔵文化財調査事業団	
富士見市教育委員会	
千葉県	夏見台遺跡第6次、東中山台遺跡群(35)~(37)・(39)・(42)、印内台遺跡群(18) 印内台遺跡群(43)~(44)、夏見台遺跡(35)・(37)、夏見大塚遺跡(20)、海老ヶ作北遺跡(3)、取掛西貝塚(4)、上ホシ貝塚(5)、平成13年度船橋市市費単独事業遺跡発掘調査報告書、平成14年度船橋市市費単独事業遺跡発掘調査報告書 弥生青銅器コレクション、国立歴史民俗博物館研究報告第145集~第156集、 国立歴史民俗博物館年報5 市立市川考古博物館館報第36号
船橋市教育委員会	
国立歴史民俗博物館	
市立市川考古博物館	
東京都	書陵部紀要第60号 史跡末松庵寺跡 青山史学第二十七号 人類誌情報 2006・2007 東日本先史時代土器編年における標式資料・基準資料の基礎的研究
宮内庁書陵部	
文化庁	
青山学院大学文学部史学研究室	
首都大学東京 考古学研究室	
慶應義塾大学民族学考古学研究室	
神奈川県	埋蔵文化財発掘調査概報集X VIほか、久留和遺跡D地点発掘調査報告ほか
横須賀市教育委員会	
新潟県	駒首湯遺跡第3・4次調査、上浦A遺跡第14次調査、堂免遺跡第2次調査、結七島遺跡V第19次調査、平成20年度国指定古跡八幡山遺跡講演会記録集、最新調査成果が語る新潟市の歴史
新潟市埋蔵文化財センター	

富山県

(財) 富山県文化振興財團

富山県埋蔵文化財センター

魚津市教育委員会

小矢部市教育委員会

砺波市教育委員会

射水市教育委員会

とやま発掘だより-平成 20 年度 発掘調査速報、平成 20 年度埋蔵文化財年報、富山考古学研究第 12 号、北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地調査報告(9)、友松遺跡発掘調査報告、懇領浦之前遺跡・懇領野際遺跡発掘調査報告、若栗中村遺跡・舌山遺跡・宮沢駅廻遺跡発掘調査報告

長山遺跡

埋文とやま vol106 ~ vol110、繩文時代の土偶のムラ 長山遺跡、富山県埋蔵文化財センター年報 平成 20 年度¹、前田の時代と城

魚津市立博物館紀要第 7 号

桜町遺跡発掘調査報告書 繩文土器・石器編Ⅱ、桜町遺跡発掘調査報告書 木製品・織維製品・植物編、桜町遺跡発掘調査報告書 繩文時代縄括縦

砺波市遺跡詳細分布調査報告 3・林・高波²、砺波市遺跡詳細分布調査報告 4・油田・南殻若・庄下³、砺波市遺跡詳細分布調査報告 5・柳瀬・太田・中野⁴、大門町企楽園地内遺跡調査報告(3)、安吉遺跡発掘調査報告(3)、本江畑田 I 遺跡発掘調査報告(2)、二口油免遺跡発掘調査報告(4)、高島 A 遺跡発掘調査報告、針原西遺跡発掘調査報告、射水市内遺跡発掘調査一覧 平成 19 年度⁵

石川県

(財) 石川県埋蔵文化財センター

能登町真駒遺跡縄文館

金沢大学文学部考古学研究室

福井県

福井県埋蔵文化財調査センター

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館

山梨県

山梨県埋蔵文化財センター

北杜市教育委員会

いしかわの遺跡 No.30 ~ No.32、宿神社前遺跡・洲南窯跡東支群・中山堡跡・飯川谷製鉄遺跡・東三階 A 遺跡・大根・春木遺跡群・春木 A・B 遺跡・新庄遺跡・瀬戸窯跡群・瀬戸窯跡発掘調査報告書・良川北遺跡・金石本町遺跡・誓正寺高畠遺跡・下福増遺跡・宋松遺跡・長竹遺跡発掘調査報告書・三木 A 遺跡・竹生野フルヤシキ遺跡・若緑ヒラ野遺跡・森ガッコウ遺跡・加茂遺跡 I・石川県埋蔵文化財情報第 20 号・第 21 号・年報 10

五郎左エ門分遺跡

金沢大学考古学紀要第 30 号

年報 23、稲葉山城跡・黒駒遺跡・中角遺跡 2、菅谷烏帽子遺跡・福井城跡・志田神田遺跡・芝崎遺跡・淨土寺遺跡 II・菊山崎遺跡 II・淨土寺遺跡 I・林・藤島遺跡泉田地区

一乗谷朝倉氏遺跡 39、一乗谷朝倉氏遺跡資料館紀要 2008

埋文やまなし第 33 号~第 35 号、玉川金山遺跡・寺前遺跡・八幡神社遺跡・山梨県内分布調査報告書(平成 21 年 1 月~12 月)、県指定史跡甲府城跡平成 21 年度調査・整備報告書・年報 25

次郎橋遺跡・社口遺跡・妻の神遺跡ほか・県営は場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書・藤林寺跡遺跡ほか・県営は場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書・東久保遺跡・多屋前遺跡・腰巻遺跡(第 1 ~ 3 次調査)・御崎前遺跡・湯沢古墳 2 号墳・3 号墳・山ノ神遺跡・蟹板遺跡・平山遺跡・高砂遺跡・五反田(環下西)遺跡・二ツ木遺跡(第 1 次・2 次・3 次)・大免遺跡・五反田遺跡・御崎前遺跡 I

鳥原平遺跡群 2 ~ 5、黒沢遺跡第 1・2 次調査・後田遺跡・史跡谷戸城跡周辺遺跡・史跡谷戸城跡・寺所第 2 遺跡 I(石器編)・梅ノ木遺跡Ⅲ・梅ノ木遺跡Ⅳ・永井原 V 遺跡

国道 474 号線(飯喬道路)埋蔵文化財発掘調査報告書 3、(主)長野荒瀬原線(四ツ屋バイパス)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書・一般国道 20 号(坂室バイパス)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書・月岡遺跡

元善可遺跡(2)・松代城跡(3)

渋取田遺跡・中の沢遺跡・半過古墳群・平成 20 年度市内遺跡発掘調査報告書・国史跡上田城跡石垣解体修復工事報告書

長野県

(財) 長野県埋蔵文化財センター

長野市埋蔵文化財センター

上田市教育委員会

佐久市教育委員会	西一本柳遺跡ⅩⅥ、西近津遺跡Ⅵ、西近津遺跡Ⅶ、下宮原遺跡Ⅰ・Ⅱ、市内遺跡発掘調査報告書2007、森平遺跡・北近津遺跡Ⅱ・西一里塚遺跡Ⅲ・大豆田遺跡Ⅲ、東五里田遺跡Ⅱ、金井坂遺跡、萬石遺跡Ⅱ、西一本柳遺跡XⅦ、佐久市文化財年報17
松本市教育委員会	原町遺跡、松本城三の丸跡小柿町第2次発掘調査報告書、出川南遺跡、川西間田遺跡Ⅲ・IV、中山古墳群・鍬形原遺跡・鍬形原磐座・桜ヶ丘古墳 越道遺跡・宮垣外遺跡 上原城下町遺跡Ⅲ 御所平遺跡・御所平北遺跡
辰野町教育委員会 茅野市尖石繩文考古館 井戸尻考古館 長野県立歴史館	長野県立歴史館たよりvol59～vol61、善光寺信仰・流転と通暦の動化・信州知の遺産の系譜
岐阜県 各務原市埋蔵文化財調査センター 岐阜県文化財保護センター	かかみがはらの想文第18号、山田寺跡・山田寺跡 平成20年度年報、きずな第55号～第57号、ウバガ平遺跡・ウバガ平古墳群、広畑野口遺跡
岐阜市教育委員会	平成19年度岐阜市市内遺跡発掘調査報告書、岐阜城跡・平成19・20年度岐阜市市内遺跡発掘調査報告書
静岡県 (財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	大平遺跡Ⅲ・駿府城内遺跡・上戸戸呂古廟・村山浅間神社遺跡・浅間神社遺跡・山宮浅間大社遺跡・菊川市下平川の遺跡群・大岡元長塙関連遺跡Ⅲ・梅ノ木沢遺跡Ⅱ・丸尾北遺跡・桜畑上遺跡・発掘物語しづおかNo.127～No.129・静岡県埋蔵文化財調査研究所年報25、イタドリA遺跡・イタドリB遺跡・イタドリC遺跡・秋葉林遺跡I・大門遺跡・白岩遺跡・白岩下遺跡・堂ヶ谷魔寺・堂ヶ谷經塚 加茂東原I遺跡発掘調査報告書-第6次調査Ⅱ-、堂山3号墳発掘調査報告書・向笠西原古墳群発掘調査報告書・特別史跡遠江国分寺跡-平成20年度発掘調査のあらまし-
磐田市埋蔵文化財センター	平成20年度掛之上遺跡-写真図版編-、道ヶ谷横穴群・古新田II遺物羣
袋井市教育委員会 浜松市埋蔵文化財調査事務所	高塚遺跡・上新屋遺跡・四ツ池古墳群2次・正栗寺遺跡・坊ヶ跡遺跡2次・東前遺跡Ⅲ・舞阪町天城白遺跡・恒武西宮遺跡8次・鳥居松遺跡6次・梶子遺跡12次・北神宮寺遺跡・西畠塚遺跡2次
熱海市教育委員会	熱海市内伊豆石丁場遺跡確認調査報告書
愛知県 安城市埋蔵文化財センター 安城市歴史博物館 名古屋市見晴台考古資料館	鹿乗川流域遺跡群VI・堀内貝塚 年報第18号・博物館ニュースNo.74～No.75、私の好きな逸品-収蔵品展- 平手町遺跡・埋蔵文化財調査報告書59、尾張元興寺跡第13次発掘調査報告書・高巣第56次発掘調査報告書・志段味古墳群・堀越町遺跡・熱田神宮内遺跡・朝日遺跡発掘調査報告書・NN319号窯群発掘調査報告書・名古屋市見晴台考古資料館年報26
豊田市郷土資料館	豊田市郷土資料館だよりNo.67～No.70、平成19年度市内遺跡発掘調査事業概要報告書・高橋遺跡第16次調査・曾根遺跡・拳母城（七州城）跡II・郷上遺跡・塙の歴史と民俗三河の塙生産と交易
名古屋大学考古学研究室	名古屋大学文学部研究論集164
三重県 三重県埋蔵文化財センター	西野田遺跡発掘調査報告（第1・2・3次調査）、丁長遺跡（第1次）・大谷遺跡（第1・2次）発掘調査報告・研究紀要第18-1号・横尾墳墓群（中・近世墓）発掘調査報告・橋垣内（A～C地区）発掘調査報告・上箕田遺跡（第3次）・上箕田城跡・上原遺跡・尾野山城跡・打越城跡発掘調査報告・豊田大垣内遺跡（第2次）発掘調査報告・一般国道23号中勢道路埋蔵文化財発掘調査概報21・舞出北遺跡発掘調査報告2・長谷町遺跡・斎宮池遺跡・真木谷遺跡・与五郎谷遺跡

	発掘調査報告、小金・高塚・斎宮池古墳群発掘調査報告、小野城跡発掘調査報告、岡田遺跡発掘調査報告、国立療養所遺跡発掘調査報告、西野田遺跡（第5次）発掘調査報告、南張貝塚（第1、2、3次）発掘調査報告、谷野遺跡、岸本遺跡（第4次）発掘調査報告、小谷A遺跡（第2次）発掘調査報告、外佐田古墳発掘調査報告、秋丸遺跡発掘調査報告
津市埋蔵文化財センター 伊賀市教育委員会	津市文化財年報3 -平成19年度-、今德城跡（第2次）発掘調査報告、多倉田遺跡（第3次）発掘調査報告、まいぶん津第5号、平成19年度市内遺跡試掘・確認調査報告、多気北畠氏遺跡第30次発掘調査報告、史跡多気北畠氏城跡保存管理計画、亀井遺跡（第2・3次）発掘調査報告、稻葉古墳群・鎌切古墳群発掘調査報告
松阪市教育委員会 伊賀市教育委員会 滋賀県 滋賀県埋蔵文化財センター	西野田遺跡（第4次）発掘調査報告書、天神遺跡 伊賀市文化財年報5
（財）栗東市文化体育振興事業団	滋賀県文化ニュース No.341号～No.348号、近江の奈良時代、近江の平安時代、国指定史跡 鎌刀城跡、平成20年度滋賀県指定文化財「木造薬師如来坐像」、平成20年度滋賀県指定文化財「近江與地志略」、重要文化的景観「高島市海津・西浜・知内の水辺景観」、滋賀文化財だより No.309～No.312、おうみ文化財通信 Vol.1～Vol.3
東近江市埋蔵文化財センター	靈仙寺遺跡発掘調査報告書、高野遺跡発掘調査報告書、辻遺跡発掘調査報告書、純道院発掘調査報告書、辻遺跡発掘調査報告書、多福寺遺跡、靈仙寺遺跡発掘調査報告書、1989年度栗東町埋蔵文化財発掘調査資料集、栗東市埋蔵文化財調査報告 2007（平成19）年度年報、手原遺跡発掘調査の記録、林遺跡発掘調査報告書
滋賀県教育委員会	東近江市埋蔵文化財調査報告書、東近江市埋蔵文化財調査報告書、東近江市埋蔵文化財調査報告書、東近江市文化財年報-平成17～20年度-、東近江市の埋蔵文化財
大津市教育委員会	史跡紫香楽宮跡（内裏野丘陵地区）確認調査事業報告書、平成19年度滋賀県埋蔵文化財調査年報、肥田城遺跡I・赤野井湾遺跡、王の湖・武士の湖、堂山古墳群、外谷遺跡、最勝寺境内遺跡、戸井遺跡、十里遺跡、長島遺跡・夕日ヶ丘北遺跡、上仰木遺跡、極楽寺遺跡II、特別史跡彦根城跡
竜王町教育委員会	大津市埋蔵文化財調査年報-平成19（2007）年度-、近江国府跡関連遺跡発掘調査報告書II、近江国府跡関連遺跡発掘調査報告書V-青江遺跡・中路遺跡-、大津市埋蔵文化財調査年報-平成20（2008）年度-
滋賀県立安土城考古博物館 大津市歴史博物館 滋賀県安土城郭調査研究所 滋賀県立大学人間文化学部	竜王町の遺跡めぐりオウゴ古墳、竜王町遺跡リーフレット16 岩屋古墳、竜王町の埋蔵文化財昔の人たちの足跡ってどうやってしらべるの？竜王町内遺跡発掘調査概要報告書平成18年度～平成19年度、ブタイ遺跡発掘調査報告書、苗村神社樓門、苗村神社神輿庫 おおてみら第67号～第70号 大津歴博だより No.76～No.77
京都府 (財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター (財) 京都市埋蔵文化財研究所	滋賀県安土城郭調査研究所年報 2007年度 人間文化第25号～第26号 京都府埋蔵文化財情報第108号～第110号 平安京左京五条三坊九町跡、烏丸綾小路遺跡、長岡京左京二条四坊六・七町跡、長岡京左京三条四坊十・十一町跡、平安京左京三条二坊十町（堀河院）跡、史跡賀茂御祖神社境内、常盤東ノ町古墳群、平安京右京二条二坊九町跡、平安京右京七条一坊十五町跡、平安京右京六条一坊十四町跡、名勝清風荘庭園、平安京左京七条一坊四町跡、御土居跡、昭和51年度 京都市埋蔵文化財調査概要、平成18年度財团法人京都市埋蔵文化財調査年報、公家町遺跡、常盤東ノ町古墳群・村ノ内町遺跡・常盤仲之町遺跡、常盤仲之町遺跡、教王護國寺旧境内（東

(財) 向日市埋蔵文化財センター 京都府教育庁 京都市文化芸術都市推進室	寺旧境内、史跡南禅寺境内、平安京右京三条三坊三町跡、平安京左京八条三坊四・五町跡 長岡京跡ほか、年報 都城 21 京都府埋蔵文化財調査報告書（平成 20 年度） 平成 20 年度京都市内遺跡発掘調査報告、平成 20 年度京都市内遺跡立会調査報告、平成 20 年度京都市内遺跡試掘調査報告 南丹市文化財調査報告書 平成 19 年度～平成 20 年度 京都橘大学 文化財調査報告 2008
(財) 八尾市文化財調査研究会	平成 20 年度（財）八尾市文化財調査研究会事業報告、小阪合遺跡、八尾南遺跡第 18 次発掘調査報告書、弓削遺跡第 9 次調査、教興遺跡第 3 次調査、矢作遺跡第 7 次調査、八尾南遺跡第 30 次調査、久宝寺遺跡、郡川遺跡第 8 次調査、高安古墳群、衛光寺跡発掘調査無報告書、郡川遺跡第 6・7 次調査、小阪合遺跡・中田遺跡・久宝寺遺跡・小阪合遺跡・成法寺遺跡・東郷遺跡・西郡庵寺・大竹遺跡・太子堂遺跡・八尾南遺跡 図録 考古資料でみる枚方の歴史 2009 古代の匠に挑戦！今城塚古墳の 3 つの石棺を市民の手で復元～、古代の匠に挑戦！石棺復元体験への手引き～阿蘇ピンク石編～、安満遺跡-平成 20 年度確認調査速報、嶋上遺跡群 33、史跡鶴山古墳
(財) 枚方市文化財研究調査会 高槻市立埋蔵文化財調査センター	年報平成 19 年度、大阪文化財研究第 34 号、三宅西遺跡、讀良郡条理遺跡Ⅸ、讀良郡条理遺跡Ⅹ、大和川今池遺跡Ⅱ、上私部遺跡Ⅲ、有池遺跡Ⅲ、山賀遺跡Ⅱ、下池田遺跡、大和川今池遺跡Ⅰ、2007 年度共同研究成果報告書 平成 20 年度国庫補助事業発掘調査報告書、史跡土塔整備事業報告書、百舌鳥古墳群の調査 2、堺環濠都市遺跡（SKT946）発掘調査概要報告、堺環濠都市遺跡（SKT984）発掘調査概要報告、堺環濠都市遺跡（SKT999）発掘調査概要報告、辻之遺跡（NT-3）発掘調査概要報告、平成 19 年度市内遺跡立会調査概要報告、堺環濠都市遺跡（SKT982）発掘調査概要報告、大保遺跡（DIH-5）発掘調査概要報告
堺市教育委員会	文化財ニュース録 No.35、堺市埋蔵文化財発掘調査概要-平成 21 (2009) 年度、枚方市埋蔵文化財発掘調査概要 2008、特別史跡百濟寺跡 新上小阪遺跡第 1 次発掘調査概報、附植遺跡第 19 次発掘調査概報、鬼虎川遺跡第 64 次発掘調査報告、みかん山遺跡第 2 次発掘調査報告、五里山古墳群第 5 次発掘調査報告、東大阪市下水道事業関係発掘調査概要報告-平成 20 年度-、東大阪市埋蔵文化財発掘調査概報-平成 20 年度- 羽曳野市文化財分布図 2008、古市遺跡群 X X X 、羽曳野市内遺跡調査報告書-平成 16 年度-
東大阪市教育委員会	畑ヶ田南遺跡Ⅱ、新家遺跡Ⅰ、平成 20 年度 富田林市内遺跡群発掘調査報告書 写真展 貝塚市のいま、むかし、ほっかんさんの平成大修理Ⅱ、絵造に見る願泉寺卜半家の歴代、米穀肥料商廣海家と泉州地域、貝塚市の指定文化財 2-平成 18 年度指定の考古資料編、貝塚市内の近代建築、貝塚市内の民俗芸能、貝塚市内の近世建築、貝塚市遺跡群発掘調査概要 31
羽曳野市教育委員会	泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要-平成 20 年度-、泉佐野市大木・土丸地区詳細分布調査報告書、森山遺跡 07-2 区の調査
富田林市教育委員会 貝塚市教育委員会	平成 20 年度文交野市埋蔵文化財発掘調査概要 池田市埋蔵文化財発掘調査概報 2008 年度
泉佐野市教育委員会	平成 20 年度発掘調査概報
交野市教育委員会 池田市教育委員会 茨木市教育委員会 河内長野市教育委員会	河内長野市埋蔵文化財調査報告書 X X V I 、史跡觀心寺境内・金剛寺境内保存管理計画書
八尾市教育委員会	高安千塚シンポジウム記録集、中新田会所跡旧植田家住宅、植田家を語るも

大阪府立近つ飛鳥博物館	のたち、やおの古代-くらしといのり-、八尾市内遺跡平成20年度発掘調査報告書、高安千塚シンボジウム記録集2
吹田市立博物館	博物館だより-アスカディア・古墳の森 vol.30 ~ vol.31、卑弥呼死す 大いに氣をつくる、大阪府立近つ飛鳥博物館報 12、河内平野の集落と古墳、ふたつの飛鳥の終末期古墳
大阪府立狹山池博物館 大阪歴史博物館	博物館だより No.37 ~ No.40、藏人遺跡発掘調査報告書Ⅱ、平成20(2008)年度埋蔵文化財緊急発掘調査概報、登録有形文化財中西家住宅、岡田孝男家住宅調査報告書、登録有形文化財樋原家住宅、山田伊射奈岐神社本社本殿調査報告書、吹田市の近世神社建築調査報告書、西尾家文書目録、旧西尾家住宅、吹田いま・むかし、北摂の戦国時代、吹田市立博物館報9
大阪大学考古学研究室 大阪大谷大学	狹山池復活 鷹長の改修にみる先端技術、大阪府立狹山池博物館研究報告6 大阪歴史博物館年報 平成19年度、大阪歴史博物館年報 平成20年度、なにわ歴博カレンダー No.33
兵庫県	長尾山古墳第2次・第3次発掘調査概報 志賀考古学研究第9号、文化財研究第9号
妙見山麓遺跡調査会 姫路市埋蔵文化財センター	郡家遺跡、徳井町遺跡 渡来人の考古学、東前畠遺跡・高座遺跡、別所遺跡、姫路市見野古墳群発掘調査報告
たつの市埋蔵文化財センター 神戸市教育委員会	揖保郡三窓~林田・野田・新宮のやきもの~ 大阪消防備と和田岬砲台、神戸モダニズム探訪、神戸市埋蔵文化財分布図、本山中野遺跡第三次発掘調査報告、長田神社境内遺跡第17次発掘調査報告書、西岡本遺跡第4・5・6次発掘調査報告書、水笠遺跡第26・27・28・29次発掘調査報告書、平成18年度神戸市埋蔵文化財年報、日輪寺遺跡、上沢遺跡第55次発掘調査報告書
伊丹市教育委員会 芦屋市教育委員会	有岡城跡発掘調査報告書XIII 平成14年度国庫補助事業芦屋市内遺跡発掘調査概要報告書、平成19年度国庫補助事業芦屋市内遺跡発掘調査概要報告書、金津山古墳発掘調査報告書、月若遺跡発掘調査報告書、三条岡山遺跡発掘調査報告書
加西市教育委員会 赤穂市教育委員会 尼崎市教育委員会	三口東野鹿廻跡群・鏡山6号墳、横巣遺跡(第2次) 赤穂市指定有形文化財(建造物) 近藤源八宅跡長屋門復原整備報告書 尼崎市埋蔵文化財調査分布地図及び手引き-平成21年版-、尼崎市内遺跡発掘調査等、尼崎市埋蔵文化財調査年報平成15年度、あまがさき文化財だより No.1 世界文化遺産姫路城石垣の魅力-「石垣フォーラム記録集」-、城郭研究室年報vol.19
姫路市立城郭研究室	文化財年報~2006年度~、加東市内遺跡試掘確認調査概要 平成19年度川西市発掘調査報告、川西市加茂遺跡、川西市栄根遺跡
加東市教育委員会 川西市教育委員会 篠山市教育委員会 高砂市教育委員会 太子町教育委員会 佐用町教育委員会 多可町教育委員会 神戸市立博物館 赤穂市立歴史博物館	史跡籠山城跡 時光寺古墳 平成14・15・16年度埋蔵文化財調査年報 平成19年度埋蔵文化財調査年報、平成元年度埋蔵文化財調査年報 極楽寺遺跡、萬岸・五反田遺跡I 研究紀要第25号、神戸市立博物館年報 No.24
兵庫県立考古博物館	赤穂を治めた藩主・森家- ひょうごの遺跡第71号~第74号、東南遺跡、山田地区遺跡I、中佐治古墳群、柳木遺跡、高木遺跡、栗津大年遺跡、竹万宮ノ前遺跡、伝平等寺跡遺跡、宮内堀臨遺跡I、丁・柳ヶ瀬遺跡II、奥村麻寺、下加茂遺跡II、塚ノ山1号墳、原田西遺跡、上三河遺跡、鶴石田遺跡、窟屋1号墳、三田城跡、柴遺跡、若水古墳群・城跡、坂元遺跡II、兵庫県立考古博物館NEWS vol.4 ~ vol.5
播磨町郷土資料館	播磨町郷土資料館 館報20

大手前大学史学研究所	龍子三ツ塚古墳の発掘調査、歴史文化遺産研究第2号、大手前大学史学研究所紀要第7号、南所3号墳
奈良県	
桜井市立埋蔵文化財センター	桜井の小古墳・古墳時代後期に造られた小さな古墳たち-、平成19年度国庫補助による発掘調査報告書、經向遺跡発掘調査報告書2、桜井市内埋蔵文化財2004年度発掘調査報告書1、桜井市内埋蔵文化財2007年度発掘調査報告書1、50cm以下の桜井、弥生後期の集落史、經向考古学通信Vol.1、桜井市内埋蔵文化財2008年度発掘調査報告書1 埋蔵文化財ニュースNo.134～No.137、遺跡情報交換標準の研究 第2版 平成19年度標原市文化財調査年報 字陀市内遺跡・発掘調査概要報告書 2008年度
奈良文化財研究所	唐子・鍵考古学ミュージアム （財）元興寺文化財研究所
橿原市教育委員会	唐子・鍵考古学ミュージアム （財）元興寺文化財研究所
宇陀市教育委員会	唐子・鍵考古学ミュージアム （財）元興寺文化財研究所
田原本町教育委員会	唐子・鍵考古学ミュージアム （財）元興寺文化財研究所
唐古・鍵考古学ミュージアム	唐子・鍵考古学ミュージアム （財）元興寺文化財研究所
（財）元興寺文化財研究所	唐子・鍵考古学ミュージアム （財）元興寺文化財研究所
天理大学考古学研究室	寺内町と陣屋の考古学-近世田原本の成立、唐古・鍵考古学ミュージアム ミュージアムコレクション Vol.2、弥生グラフィティー-唐古・鍵遺跡の記号土器-元興寺文化財研究 No.90、元興寺文化財研究所研究報告 2008、平城京右京一条三坊一坪、平城京左京四条三坊十三坪、平城京左京二条六坊三・四・五・六坪及び奈良町遺跡、史跡高野山金剛峯寺中門跡第1次～3次調査、金剛寺の仮木古事第13冊
天理大学附属天理参考館	天理参考館報第22号 文化財学報第二十七集 白石太一郎先生追別記念論集
奈良大学文学部文化財学科	
和歌山県	
（財）和歌山県文化財センター	地宝のひびき-和歌山県内文化財調査報告会、公開シンポジウム 紀ノ川流域の縄文文化 資料集 和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報-平成18年度（2006年度）-、川辺遺跡第4・5・6次発掘調査報告書、和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報-平成19年度（2007年度）-発掘土器ドキ1昔の和歌山、和歌山城クイズラリールートマップ 平成20年度有田川町埋蔵文化財調査年報、有田川町文化財マップ、旧吉備中学校校庭遺跡第4次発掘調査現地説明会資料
（財）和歌山市都市整備公社	
有田川町教育委員会	
鳥取県	
（財）鳥取県教育文化財団	年報 2008、坂長第6遺跡、坂長第7遺跡、坂長第8遺跡、坂長下門前遺跡2・坂長ヨコロ遺跡、坂長熊谷遺跡
（財）米子市教育文化事業団	目久美遺跡（第15次調査）、埋蔵文化財調査室年報10、米子市喜多原第4遺跡発掘調査報告書、米子市内遺跡発掘調査報告書
鳥取県埋蔵文化財センター	古墳時代II くらしと社会、青谷上寺地遺跡10、青谷上寺地遺跡出土品調査研究報告4建築部材（考察編）、青谷上寺地遺跡木器埋藏環境調査報告書、倭と韓-青谷上寺地遺跡は語る-、小竹下宮尾遺跡、西坪岩屋谷遺跡、松原古墳群I 倉吉市内遺跡分布調査報告書15、沢ベリ遺跡第4次発掘調査報告書
倉吉市教育委員会	
島根県	
島根県埋蔵文化財調査センター	ドキ土器まいぶん No.45～No.48、西川津遺跡、石見路の言伝、なきすな街道、埋蔵文化財調査センター年報17、史跡山代郡北新造院跡整備事業報告書、五丁遺跡・庵寺遺跡I・於才追遺跡、尾崎遺跡、大塚遺跡、三大寺遺跡、長畑ヶ遺跡・下熊谷上遺跡、清水ヶ平遺跡・六重丘遺跡・長者畠遺跡・六重城南遺跡・讃坂遺跡・鉢穴内遺跡・史跡出雲國府跡-6-、大呂奥遺跡・下大呂遺跡・川尻鉢跡・新屋敷I遺跡・新屋敷II遺跡・大志戸II遺跡・山持遺跡 Vol.5 (6区)、御崎谷遺跡・間谷東遺跡・浅柄北古墳・間谷西II遺跡・間谷西古墳群 めんぐる古墳の研究、サルガ鼻洞窟遺跡・椎現山洞窟遺跡・出雲玉作の特質に関する研究・古代出雲における玉作の研究III・出雲国府周辺の復元研究・古代八雲立つ風土記の丘復元の記録- 埋蔵文化財課年報X I 平成18年度、埋蔵文化財課年報X II 平成19年度、岩汐窓発掘調査報告書・春日山古墳群・寺ノ脇遺跡・石台II遺跡
島根県古代文化センター	
（財）松江市教育文化振興事業団	

松江市教育委員会	史跡出雲玉作跡 宮ノ上地区発掘報告書、高田尾横穴墓 県道御津東生馬線改良工事に伴う発掘調査報告書
浜田市教育委員会 出雲市役所	唐谷板造、島根県浜田市遺跡地図 I (浜田自治区)・仕切遺跡 築山遺跡Ⅲ、神門寺付近遺跡 I、平成 20 年度出雲市文化財調査報告書、築山遺跡 IV
津和野町教育委員会 飯南町教育委員会 島根県立八雲立つ風土記の丘資料館 島根大学ミュージアム 岡山県	煙ヶ追遺跡 森 II 遺跡・森 III 遺跡・森 IV 遺跡・森 VI 遺跡 八雲立つ風土記の丘 No.199 島根大学ミュージアム年報 平成 20 年度
岡山県古代吉備文化財センター	延寿寺跡・倉ヶ市遺跡・下土田遺跡・特別名勝・国指定史跡 岡山後楽園、中掛川遺跡 3、鍛冶屋 D 遺跡、八塚古墳群、中島遺跡・宮南遺跡・国長遺跡・天神河原遺跡、所報吉備第 46 号～第 47 号
津山弥生の里文化財センター 岡山市埋蔵文化財センター	津山弥生の里第 16 号、大蔵池南 2 号鉄穴流し遺構・二つ塚 1 号墳 岡山市埋蔵文化財センター研究紀要第 1 号、南坂古墳群 (15 号墳他 5 基)、岡山市埋蔵文化財センター年報 8、津寺 (加茂小・体育館) 遺跡、新庄尾上遺跡青藤城跡
井原市文化財センター 岡山県教育委員会	備前おかやま津田永忠の遺産をめぐる旅ガイドブック、岡山県埋蔵文化財報告 39、国指定史跡津島鳥達跡等保存整備事業報告書
備前市教育委員会 高梁市教育委員会 總社市教育委員会 赤磐市教育委員会	国指定史跡 備前陶器窯跡、鎌倉・室町 BIZEN 寺山城跡測量調査報告書
真庭市教育委員会 浅口市教育委員会 勝央町教育委員会 岡山県立博物館 津山郷土博物館	大文字遺跡 (柏守魔寺)、總社市埋蔵文化財調査年報 18 赤磐の人物・鶴崎中次戸董跡・鶴崎鳥井董跡・鶴崎塙辛道跡・備前因分尼寺跡・池新田遺跡・赤坂遺跡 大旦遺跡発掘調査報告
倉敷市立自然史博物館	竹林寺天文台遺跡
岡山県立美術館	土居遺跡・勝央町内遺跡試掘確認調査報告書 (平成 18 年度～平成 20 年度) 土と火のオブジェ-縄文の土器・土偶から現代備前焼まで-
岡山大学文学部考古学研究室 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	津山松平藩可奉行日記十七、博物館だより No.60 ～ No.63、平成 19 年度津山郷土博物館年報、古い津山の写真展・津山城下町、お城の松に。- 倉敷市立自然史博物館報 18、岡山県の樹木図鑑、倉敷市立自然史博物館研究報告第 24 号
岡山理科大学 人類学研究室 岡山理科大学 図書館	美術館ニュース No.84 ～ No.88、紀要第 1 号、中高生のための『岡山の日本画・江戸時代から現代まで』 勝負砂古墳調査報
岡山大学文学部日本史研究室 岡山市立オリエント美術館 倉敷市文書館 (アーカイブス) 研究会 岡山県遺跡保護調査団事務局 高梁川流域連盟	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報第 42 号～第 45 号、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2008 龜川を科学する Part4、鬼ノ城と古備津神社・桃太郎の舞台を科学する 自然科学研究所研究報告第 34 号、岡山理科大学紀要第 44 号 B 人文・社会科学、岡山理科大学紀要第 44 号 A 自然科学 岡山史料ネット 岡山市立オリエント美術館研究紀要 23 倉敷の歴史・倉敷市史紀要-第 19 号 調査団ニュース第 33 号～第 34 号 高梁川 67
広島県 (財) 東広島市教育文化振興事業団	阿岐のまほろば vol.39、溝口 3 号遺跡発掘調査報告書、安芸国分寺周辺遺跡発掘調査報告書、戸鼻遺跡発掘調査報告書、外宮山城跡発掘調査報告書、堀城跡発掘調査報告書、杵原 2 号遺跡発掘調査報告書、綾 1 号遺跡発掘調査報告書、西中野遺跡発掘調査報告書、黄幡第 4 号古墓発掘調査報告書、竹内屋敷跡発掘

(財) 広島県教育事業団 広島県教育委員会 府中市教育委員会 三次市教育委員会 福山市教育委員会 庄原市教育委員会 尾道市教育委員会 北広島町教育委員会 広島県立歴史博物館 広島県立歴史民俗資料館 広島大学文学部考古学研究室	調査報告書 金井原遺跡発掘調査報告書、ひろしまの遺跡第102号 平成19年度広島県内遺跡発掘調査(詳細分布調査)報告書 府中市内遺跡 10~13 嵇荷山 A - 第1号古墳 福山市内遺跡発掘調査概要Ⅲ、国指定史跡二子塚古墳・合ノ坪西遺跡 平子石灰焼成窯遺構調査報告書、平子石灰焼成窯遺構-県内の石灰窯- 尾道市内遺跡 2007年度 鍛原製鉄遺跡発掘調査報告書 広島県立歴史博物館ニュース第79号・第81号~第82号 古代出雲と吉備の名宝-青銅と鉄と玉と- 帝釈峠遺跡群発掘調査年報XXIII、瀬戸内-中国山地-日本海地帯のサヌカイトと龍岐産黒曜石利用からみた先史物流の形成
山口県	
山口県埋蔵文化財センター	陶けん第22号、上り熊造跡Ⅱ、三見はうろく窯跡・ほうろく茶屋跡、長谷造跡 東禅寺・黒山造跡(岡上ノ原・後子庵地区) 山崎古墳
山口県教育委員会 下関市立考古博物館	あやらぎNo.20、研究紀要第13号、下関市立考古博物館年報14、木の文化Ⅱ-古墳時代の木器- MUSEUM LETTER 2008 No.3~No.5、研究紀要第4号、研究紀要第5号 てらこや埋文 2008年夏~2010年春、山口大学埋蔵文化財資料館年報-平成18年度-
萩市歴史まちづくり部	史跡萩城跡(外堀)
徳島県	
(財) 徳島県埋蔵文化財センター 徳島市教育委員会 徳島大学埋蔵文化財調査室	続・発掘へんろ-四国の旧石器・縄文時代- 徳島市埋蔵文化財発掘調査概要19 年報1
香川県	
香川県埋蔵文化財センター	いにしえの讃岐 No.62・No.64~No.65、研究紀要V~VI、平成20年度香川県埋蔵文化財センター年報、高屋条理遺跡 津森位遺跡、讃岐国府跡を探る、讃岐國府跡を探る 埋蔵文化財試掘調査報告書XXII、香川県文化財年報平成19年度
香川県教育委員会 高松市教育委員会	太田下・須川遺跡、奥の坊遺跡群Ⅴ、高松市内遺跡発掘調査概報、高松市指定史跡 片山池窓跡群 確認調査報告書、石ヶ鼻古墳 御天元神社古墳、藤尾城跡 作山城跡 萩木荒神・高松城跡(江戸長屋跡Ⅱ)、高松城史料調査報告書 丸龜市内遺跡発掘調査報告書、新田橋本遺跡
丸亀市教育委員会 さぬき市教育委員会 香川県立ミュージアム	さぬき市内遺跡発掘調査報告書 香川県立ミュージアムニュース vol5~vol8
愛媛県	
(財) 愛媛県埋蔵文化財調査センター	植田池田遺跡2次・3次、国分町地遺跡・国分向遺跡1次・2次、一本松遺跡、愛比光-平成20年度年報、石手村前遺跡、上郷遺跡、池の内遺跡2次調査、此花町遺跡
(財) 松山市生涯学習振興財團	忽那諸島歴史探訪、久米高畠遺跡1次・7次調査、素鷹小学校構内遺跡・拓南中学校構内遺跡・中村長正寺遺跡・小阪七ノ坪遺跡、古川遺跡-4次調査-、東本遺跡-11次・12次調査-、樽味四反地遺跡15次調査、樽味高木14次調査、松山市埋蔵文化財調査年報21、吉野ヶ里遺跡、水泥遺跡4~7次調査-、ハニワの世界、平井遺跡-3~9次調査-
今治市教育委員会	高島栗谷I・II遺跡、高橋板敷I・II遺跡、高橋山岸山古墳、松木広田遺跡-第2次調査-、喜多村八反地遺跡、延喜1号遺跡、有津番田遺跡他、市内遺跡試掘確認調査報告書XXVII、市内遺跡試掘確認調査報告書XXVIII、史跡能島城跡

東温市立歴史民俗資料館 愛媛大学埋蔵文化財調査室	北吉井鍋口遺跡-第1次調査・第2次調査-・向井古墳 文京遺跡Ⅵ
高知県 (財) 高知県文化財団 高知県教育委員会 土佐清水市教育委員会 高知県立歴史民俗資料館 高知大学人文学部考古学研究室 香南市教育委員会	高知県埋蔵文化財センター年報第18号 埋文こうち第21号～第22号、高知県埋蔵文化財年報5～6 加久見城館遺跡群 岡豊風日第68号～第69号 高知県後期古墳資料集I、朝倉古墳発掘調査概要報告書 下分遠崎遺跡IV、母代寺土居屋敷遺跡、児田柳ヶ本遺跡
福岡県 福岡市埋蔵文化財センター 小郡市埋蔵文化財調査センター	福岡市埋蔵文化財センター年報第27号 寺福童遺跡4、三沢寺小路遺跡3・5、福童町遺跡3・5、大板井遺跡22、横隈外浦遺跡、三沢南崎遺跡2、三沢南崎遺跡4、井上南内原遺跡3、大板井遺跡23、松崎六本松遺跡2、大崎後原遺跡 筑後国府通信vol6、正福寺遺跡第7次調査「造構櫛」、鉄砲小路遺跡-第2次調査-、筑後国府跡-第225次調査-、西郷遺跡、日渡遺跡-第6次調査-、京隈侍屋敷遺跡-第12次調査-、久留米市埋蔵文化財調査集報XⅠ、力常遺跡-第1次調査-、第2次調査-、二本木遺跡群VI、平成19年度久留米市内遺跡群、筑後国府跡-平成20年度発掘調査報告-、概況報告-、筑後国三瀧郡衙跡V、筑後国府跡(2)、竹野小学校遺跡、久留米市文化財保護課年報vol5
久留米市埋蔵文化財センター	高野遺跡第3地点、中村遺跡2、カキ遺跡第5地点、伊崎遺跡第2地点、下野添遺跡、伊崎遺跡2区・3区・6区、長野尾登遺跡第1地点、小倉城三ノ丸跡第6地点、山崎遺跡、朽網馬場遺跡、長浜遺跡第2地点2、貫・裏ノ谷遺跡1、カキ遺跡第4地点、黒崎城跡9(23区)、黒崎城跡10(21・22・25区)、蒲生大畔遺跡3・蒲生柴池遺跡、蒲生寺中遺跡3、蒲生大畔遺跡4、大門遺跡第4地点(2区・3区)、埋蔵文化財調査室年報25、研究紀要-第23号-
(財) 北九州市芸術文化振興財団	藤の尾垣添遺跡II、西新町遺跡IX、蒲船津江頭遺跡I、上北島野町下遺跡、上北島川原田遺跡、常用前野遺跡、津島餅町遺跡3次調査、鏡音山古墳群平石IV・V群・鏡音山古墳群瀬戸II群・矢加部南屋敷遺跡・矢加部五反田遺跡・旧柳河藩干拓遺跡II 元岡・原遺跡群・史跡湧龍館跡・荒平古墳群1・有田・小田部46、大塚遺跡3、飯氏遺跡5、井相田C遺跡7、板付9、五十川遺跡6、坂堤1、田村15、市道戸切通線に伴う発掘調査報告書1、那珂52～55、仲島遺跡、博多126～133、箱崎36～38、比恵55～56、東比恵三丁目遺跡2、藤崎遺跡18、女原遺跡4、麦野A遺跡5～7、麦野C遺跡6、姪浜遺跡3、免遺跡2、諸岡B遺跡3、吉武遺跡群22、老司瓦窯跡、元岡・桑原遺跡群14～15、福岡市埋蔵文化財年報vol22
福岡県教育委員会	長行遺跡第2地点、高野遺跡第2地点、鍛冶町遺跡第2地点、広寿山福聚寺境内遺跡
福岡市教育委員会	村下遺跡I・牛頭後田遺跡群II、乙金地区遺跡群I・大野市の文化財第41集大野市の養蚕、国指定史跡牛頭須恵器窯跡とその世界 峰畑遺跡 第5次調査、太宰府条坊跡第150次発掘調査、太宰府条坊跡第185次発掘調査
北九州市教育委員会	トバセ遺跡2、春日市埋蔵文化財年報6 史跡求菩提山・久土路六田遺跡・薦師寺塚原遺跡 出口遺跡、ヒロ田遺跡
大野城市教育委員会	三森大綱遺跡1、千年今丸遺跡 八並跡・井出野遺跡、山ノ下遺跡
筑紫野市教育委員会	国宝福岡県平原方形周溝墓出土品図録、泊桂木遺跡II・末永数藏氏遺跡、多久遺跡群、泊リュウサキ遺跡、伊都国歴史博物館紀要第3号～第4号、背振山の
春日市教育委員会 豊前市教育委員会 飯塚市教育委員会 うきは市教育委員会 朝倉市教育委員会 糸島市教育委員会	

大刀洗町教育委員会 筑前町教育委員会 北九州市立自然史・歴史博物館 九州歴史資料館	南と北で～吉野ヶ里遺跡をとりまく国々と伊都國～、萩浦、末永数藏可遺跡II、伊都国歴史博物館年報3～4 大刀洗町内遺跡、本郷野開遺跡V・VII 国指定史跡燒ノ峠古墳、琴ノ宮遺跡、琴ノ宮遺跡～下巻～ 北九州市立自然史・歴史博物館研究報告B類歴史第6号 九州歴史資料館研究論集34、九歴だよりNo.29～No.30、九州歴史資料館年報平成20年度～ 江辺遺跡第8地点 日韓集落の研究、長者の隈古墳・若杉今里塚跡、日韓集落研究の新たな視角を求めて
佐賀県 佐賀県教育委員会	中原遺跡III、埋蔵文化財確認調査報告書- 2006年度-、西中野遺跡IV～VI、藤木四本杉遺跡I-1・6・7区の調査、ウ一屋敷遺跡II、藤木四本杉遺跡III-1・5・7・8・11・12区の調査、西洞遺跡II、元小路遺跡、北畑遺跡、徳永遺跡24区、扇形遺跡、徳永遺跡26区、有明の海と繩文人・東名遺跡が語るもの-、有明の海と繩文人・東名遺跡が語るもの-、有明の海と繩文人・東名遺跡が語るもの-、築山遺跡 宇喜多秀家陣跡、桜馬場遺跡、唐津市内遺跡確認調査(25)、久里双水古墳 市内遺跡確認調査概要報告書I、熊谷遺跡7・8・9区・西田遺跡4区、西田遺跡 広瀬向塚跡
唐津市教育委員会 神埼市教育委員会	福井洞穴範囲確認調査報告書(2) 伊古遺跡II
有田町教育委員会 長崎県 佐世保市教育委員会 雲仙市教育委員会	宇土城跡(西岡台) X
熊本県 宇土市教育委員会 大分県 大分市教育委員会	下郡遺跡群Ⅲ、丹生川坂ノ市条理跡、丹生遺跡群、大友府内13～14、大道遺跡群2、宮窓井ノ口遺跡、米竹遺跡、府内城跡、城下町跡6～7、木ノ上・田原地区の埴生群、横尾遺跡2、大分市内遺跡確認調査概報- 2008年度-、大分市埋蔵文化財調査年報19 長者屋敷遺跡第5次調査、田丸遺跡、畑中遺跡 東光寺經塚発掘調査報告書 I 宇土遺跡(A・B地点)、長田尾遺跡・北尾鶴遺跡、城下町遺跡(野原家屋敷跡)、市内遺跡発掘調査 II 小部遺跡、一般国道387号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書、法鏡寺庭寺跡、市内遺跡発掘調査概報 16 おおいた歴博 No.26～No.27
中津市教育委員会 杵築市教育委員会 竹田市文化財管理センター	埋蔵文化財通信ひむか第11号～第12号、海舞寺遺跡・市之串遺跡・中野内遺跡・森ノ上遺跡(弥生・古墳時代編)・カラ石の元遺跡、前ノ田村遺跡、朽木地下式横穴墓群、宮鶴第2遺跡、野首第2遺跡(二・三次調査)、次郎左衛門遺跡、鰐戸ノ前遺跡 平成20年度日南市内遺跡発掘調査概報
宇佐市教育委員会	下村塙跡群報告書、伊賀給遺跡、尾曲塙跡、堤下遺跡、佐土原町内遺跡IV、茶屋遺跡、小牧遺跡、下ノ山遺跡、下村塙跡群報告書II、下北方下郷第4遺跡、宮崎城跡測量調査報告書、片井野第1遺跡、大屋敷遺跡
大分県立歴史博物館 宮崎県 宮崎県埋蔵文化財センター	埋文だより第50号～第51号 西ノ原遺跡
日南市教育委員会 宮崎市教育委員会	
鹿児島県 鹿児島県立埋蔵文化財センター 垂水市教育委員会	

鹿児島大学埋蔵文化財調査室	鹿児島大学構内遺跡 郡元団地 Q-4 区
沖縄県	
沖縄県立埋蔵文化財センター	沿岸地域遺跡分布調査概報（II）
宜野湾市教育委員会	宜野湾市の文化財情報図、嘉数トゥンヤマ遺跡Ⅱ、基地内埋蔵文化財調査報告書V
その他	
全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会	埋蔵文化財関係統計資料、公立埋文協会報第 43 号
全国埋蔵文化財法人連絡協議会	全国埋文協会報 No.76 ~ No.77
文化環境研究所	文環研レポート第 27 号～第 29 号、カルチベイト No.33 ~ No.35
大谷壽文	上の町遠近、郷内を歩く、旅の徒然、小田の流れに沿って
間壁廣子	間壁廣子先生喜寿記念論文集 考古学の視点
松田朝由	豊島石石造物の研究 I
(株)吉備人出版	考えながら歩く吉備路 下
(株)ビザビリレーションズ	オセラ No.41
(株)岩崎書店	日本の遺跡と遺産 2 古墳
(株)帝国書院	明解世界史図説エスカリエ
(株)島田組	立明寺地区遺跡 B 地点

平成22(2010)年度

I 組織

埋蔵文化財センターは、文化財保護課の一施設として、市域内の埋蔵文化財に係る業務を一括して担当している。平成22年度における埋蔵文化財センターの組織及び人員は下記のとおりとなる。



文化財保護課	課長	宮原直美
埋蔵文化財センター	館長	鍵谷守秀
タ	主任	小野雅明
タ	学芸員	綾野早苗
タ	学芸員	藤原好二
タ	嘱託職員	内田智美
タ	派遣職員	福岡由貴
タ	タ	三上加津江

(職名等は平成23年3月31日現在)

II 事業の概要

1 調査事業

- (1) 事前協議 Fax等による埋蔵文化財包蔵地照会は268件である。また開発指導要綱に基づく事前協議の件数は、4件であった。このうち2件について文化財保護法に基づく届出が提出された。
- (2) 発掘調査 平成22年度は本発掘調査2件、確認調査7件、立会調査6件を実施した。本発掘調査を行った広江・浜遺跡では、古墳時代後期の包含層から製塙土器が多量に出土するとともに、製塙に関係すると考えられる建物跡が確認された。また、熊野神社本殿の防災施設設置工事に伴って実施した調査では、深さ3m以上の造成によって境内域が形成されていることも判明した。
- (3) 分布調査 昨年度に引き続き真備地区の調査を実施した。真備町北部の市場地区に所在する遺跡25か所を踏査し、遺跡台帳を作成後パソコンに入力した。
- (4) 整理作業 今年度実施した広江・浜遺跡発掘調査で出土した遺物を中心として、洗浄・註記・接合の作業を実施した。また、平成2年度に実施した広江・浜遺跡発掘調査の報告書刊行にむけて、遺物の実測・トレース等、鉄製品の保存処理を行った。保存処理の際には平成10年度に調査を行った笹池東古墳群出土鉄製品についてもあわせて処理を実施した。

2 教育普及事業

(1) 主催講座等 春の遺跡見学会など、延べ11回の講座等を実施。延べ参加人数3,173人。

講座・イベント名	実施日	講座内容	参加人数
春の遺跡見学会⑯	5/9 (日)	伯耆の遺跡を訪ねる	36人
古代の勾玉をつくろう!①	7/31 (土)	高麗石を用いた勾玉作り	22人
古代の勾玉をつくろう!②	8/1 (日)	高麗石を用いた勾玉作り	25人
ライフパークの集い	8/8 (日)	ドキドキ発掘体験	1,950人
古代の耳飾りをつくろう!①	10/30 (土)	高麗石を用いた耳飾り作り	6人
古代の耳飾りをつくろう!②	10/31 (日)	高麗石を用いた耳飾り作り	7人
秋の考古学講座 「吉備の王墓 造山古墳を掘る」	11/14 (日)	造山古墳群を歩く(現地見学)	37人
ク	11/21 (日)	吉備の王墓 造山古墳	34人
第32回倉敷市こどもまつり	2/13 (日)	トンボ玉ストラップを作ろう!	1,025人
冬の山城トレッキング	2/26 (土)	備中福山城を歩く	20人
古代の土笛を作ろう	3/6 (日)	はにわ粘土による土笛作り	11人

(2) 出前講座等講師派遣 古代の土笛づくり等、延べ7回の派遣。延べ参加人数241人。

派遣内容	開催日	依頼団体	参加人数
埋蔵文化財について	4/27 (金)	倉敷市立赤崎小学校	76人
博物館学実習	5/19 (水)	倉敷芸術科学大学	55人
古代の土笛づくり	7/21 (水)	真備図書館	18人
古代の土笛づくり	11/6 (土)	ざくろの会	25人
古代の勾玉づくり	1/20 (木)	倉敷ふれあい教室	17人
王墓の丘史跡公園案内	2/2 (金)	倉敷市立庄小学校	39人
古代の土笛づくり	2/17 (木)	倉敷ふれあい教室	11人

(3) 報告書等の刊行

倉敷埋蔵文化財センターリーフレット(改訂版)

A6裁 5000部 平成22年6月刊行

倉敷市埋蔵文化財発掘調査報告第14集「広江・浜遺跡 南山21号墳」

A4判 本文48頁 図版16頁 600部 平成23年3月刊行

(4) 資料の貸出

	貸出期間	資料名	貸出先	使用目的
1	2月25日～3月2日	橋梁遺跡の亀石写真 デジタルデータ 1点	読売新聞東京本社	文化面記事に掲載

3 利用者数

展示・講座等を含めた平成22年度の利用者数は下表のとおりである。総利用者数は13,842人で、昨年度と比較して3.8%の減となった。昨年度よりも出前講座等の利用が減少したためと考えられる。

〈平成22年度月別利用者数〉

月	大人	子ども	講座等	計	開館日数	1日平均利用者数
4	269	423	76	768	26	30
5	396	520	91	1,007	27	37
6	293	417		710	26	27
7	356	557	40	953	27	35
8	1,463	1,976	25	3,464	26	133
9	331	617		948	26	36
10	353	696	13	1,062	27	39
11	407	418	96	921	25	37
12	255	365		620	24	26
1	301	295	15	611	23	27
2	782	1,104	70	1,956	24	82
3	382	429	11	822	27	30
合計	5,588人	7,817人	437人	13,842人	308日	45人

III 教育普及事業報告

1 春の遺跡見学会⑯

～伯耆の遺跡を訪ねる～

日 時 平成22年5月9日(日)

講 師 小野雅明(倉敷埋蔵文化財センター)

対 象 一般

参加者 36人

鳥取県西部、大山の北西麓にある遺跡を訪ねた。午前中は向山古墳群と上淀廃寺跡を訪ね、当地域独特の古代文化に触れた。午後から弥生～古墳時代の集落跡・墳墓遺跡として全国的に知られる妻木晚田遺跡を見学した。地元ボランティアガイドの熱のこもった解説を聞きながら、発掘復元された遺構や展示施設を備えた広大な見学コースを回った。



2 考古学体験講座

～古代の勾玉を作ろう！①・②～

日 時 平成22年7月31日(土)・8月1日(日)

講 師 鍋谷守秀(倉敷埋蔵文化財センター)

対 象 小学生と保護者

参加者 47人(延べ人数)

これまでの勾玉作りの講座では滑石を使用していたが、製作中に割れてしまうことも少なくなかったため、今年度は軟質でありながらやや粘りの強い高麗石を使用した。製作工程についてはこれまでと同様で、下絵描き→勾玉形の成形→穴開け→全体の整形→磨きの順に行い、最後に染料で自分好みの色に染め上げた。今回は高麗石を使用することで途中で割れてしまう人も少なく、最後の「磨き」の工程でも滑石と比べて簡単に艶が出せることがわかった。



3 考古学体験講座

～古代の土笛を作ろう～

日 時 平成23年3月6日(日)

講 師 鍋谷守秀(倉敷埋蔵文化財センター)

対 象 一般

参加者 11人

粘土には焼く必要のない「はにわ粘土」を用い、型は使わず粘土を抉った半球状のものを2個合わせることで空洞を作り、あとは吹き口と指穴を開けて完成となる。作業工程はシンプルだが、粘土を抉る際の力の入れ具合が難しく、粘土は乾燥が早くひびが入りやすいため、初めての体験で形のいい土笛を作るのは、子どもはもちろん大人でも難しいようだった。



4 秋の考古学講座

吉備の王墓～造山古墳を掘る～

日 時 平成22年11月14日・21日(日)

講 師 第1回 藤原好二(倉敷埋蔵文化財センター)
「造山古墳群を歩く(現地見学)」
第2回 新納 泉(岡山大学大学院社会文化科学研究科)
「吉備の王墓 造山古墳」

会 場 第1回 岡山市北区新庄下 造山古墳

第2回 ライフパーク倉敷「視聴覚ホール」

対 象 一般

参加者 71人(延べ人数)



岡山市北区新庄下にある造山古墳は全国第4位の巨大前方後円墳であり、2005年から岡山大学による調査が行われている。今回はこの造山古墳について最新の調査成果を学ぶ講座を開催した。

第1回は、実際に現地を訪れて造山古墳の巨大さを実感した。また、本センター学芸員の解説により細部の観察や、陪塚とされる千足古墳の調査現場などの見学もを行い、造山古墳に対する理解を深めた。

第2回は、岡山大学の新納先生に調査の概要をお話しいただいた。ここではデジタル測量という新たな手法による研究の成果が示された。さらに、これまで学者の間でも意見が分かれていた周濠の有無が昨年度の調査によって判明したことが紹介され、造山古墳が畿内の大王陵に匹敵するものであることが明らかになったと説明された。



5 冬の山城トレッキング

～備中福山城を歩く～

日 時 平成23年2月26日(土)

講 師 日野浦弘幸(総社市山手公民館)
藤原好二(倉敷埋蔵文化財センター)
対 象 一般
参加者 20人

今年度は、昨年度雨で中止となった総社市備中福山城跡の見学を改めて実施した。昨年と打って変わって天候にも恵まれ、心地よいトレッキングとなった。山頂では、福山城跡を調査された日野浦弘幸氏の丁寧な説明があり、参加者は熱心に聞きいっていた。帰路には、安養寺経塚群・浅原寺跡の見学も行い、充実した講座となった。



IV 調査事業報告

平成 22 年度調査一覧表

No.	遺跡名	該当地	調査原因	区別	調査期間	調査結果
1	稗田城跡	児島稗田町	土砂埋立・資材置場造成工事	確認	10.05.18～ 10.06.03	郭
2	真備町 200 遺跡	真備町箭田	宅地造成工事	タ	10.05.21	土壌・弥生土器片
3	真備町 200 遺跡	真備町箭田	宅地造成工事	立会	10.07.02	遺物・遺構なし
4	島地北貝塚	玉島八島	宅地造成工事	確認	10.07.08	タ
5	岡田藩陣屋跡	真備町岡田	水道管理設工事	立会	10.07.08	タ
6	広江・浜遺跡	広江 1 丁目	体育館 耐震補強工事	全面	10.08.10～ 10.09.07	建物跡・ 製塙土器・須恵器
7	屋敷ノ内古墳	生坂	道路改良工事	確認	10.09.14～ 10.09.16	横穴式石室
8	上東遺跡	上東	ガス管埋設工事	立会	10.10.02	遺物・遺構なし
9	新熊野山遺跡	林	防災施設設置工事	確認	10.10.27	整地層・中世土器片
10	塩生遺跡	児島塩生	下水道設計に伴う 土質等の調査	立会	10.10.28	遺物・遺構なし
11	下木見遺跡	木見	水路改修工事	タ	11.02.18	タ
12	真備町 200 遺跡	真備町箭田	宅地造成工事	確認	11.02.23	溝・中世土器片
13	新熊野山遺跡	林	防災施設設置工事	全面	11.03.04～ 11.03.18	整地層・中世土器
14	塩生遺跡	児島塩生	ポンプ場新設工事	確認	11.03.24	遺物・遺構なし
15	新熊野山遺跡	林	防災施設設置工事	立会	11.03.25	造成・中世土器



調査地点位置図 (S=1/100,000)

稗田城跡確認調査報告 (一覧表 No.1)

調査位置 児島稗田字猪ノ尻奥3537番外

調査原因 資材置場造成工事 調査面積 12m²

調査期間 10.05.18 ~ 10.06.03 調査担当 小野・藤原

遺跡の概要 稗田から宇野津に抜ける峠道の北側、猪ノ尻池の北の尾根上に所在する。この尾根は北側の正面山山塊から南に延びる一本尾根で、眼下の谷筋から西の峠を越えると児島西岸の宇野津・本太城方面にぬけることができる。北の山塊に続く尾根筋はやや緩やかであるが、他の三方は切り立った地形となっており、山頂には南北に延びる平坦地がある。

城の防御施設としては、北の山塊に続く尾根筋の最も低い鞍部には東側の斜面に向かって降る堀切が設けられ、また、南側の頂部に登る斜面にも小郭⑦(9m × 3m)が設けられて、北からの侵入を防いでいる。

郭①は長さ約60m、北部幅約11m、中央部幅約9m、南の郭⑥の手前では幅約17mと、南北に細長い形状を呈している。中央部が最も低く、最高所は郭⑥の北側付近に位置するが、明瞭な段差等によって区画された様子は認められない。また、東西の斜面との境界についても明瞭なエッジは認めがたく、表面観察からは自然地形と区別がつきにくい状況である。しかし、北端部は凸形に加工され、その北側に二段の小郭(②・③)が設けられ、さらにその左右にも小郭(④・⑤)が設けられるという複雑な構成となっている。郭①の北端が複雑な構成を見せるのに対し、城の南端には7m × 17m程の半月形の郭⑥が観察されるだけである。南西部に若干の凹みが認められることから、このあたりに小口があった可能性もある。城主などは不明であるが、地元ではこの山を城山とも呼んでいる。

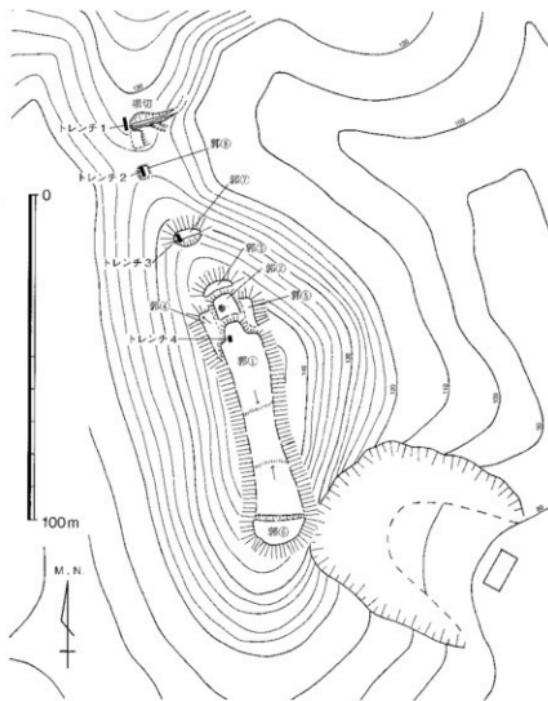
調査の概要 調査は造成範囲にかかると考えられる城の北側の尾根筋を中心に、4か所のトレンチを設定して行った。



1.稗田城跡 2.本太城跡 3.稗田土井ノ鼻城跡 4.曜城跡 5.稗田城ノ辻城跡 6.岩山城跡

位置図 (S=1/50,000)

トレンチ1(4m × 1m)は、尾根鞍部の堀切が西側に続くのかどうかを確認するために、現状で観察できる堀切の西側直上に設定した。その結果、腐植土の下はすぐに黄褐色土の地山で、堀切を含めて遺構は確認されなかった。



縄張図 ($S=1/1,500$)

堆積層と考えられる黄橙色土と浅黄色土が存在した。郭面背後の切岸は水平面に対して55度ほどの角度で形成されている。郭①との比高差は約12mである。

郭①は造成範囲にはかからないが、遺構・遺物の検出を目的としてトレンチ4 ($2m \times 1m$) を設定したものである。腐植土の下にはにぶい黄橙色土の自然堆積層が認められ、その下は地山(にぶい黄色土)となっている。水平面が造り出されており、人工的な郭であることは推定できたが、他の遺構・遺物は確認できなかった。

今回の調査の結果、稗田城跡は北の尾根筋からの攻勢に対して、小規模な郭を連ねることによって防衛を固めた城といえる。主郭である郭①の加工は不徹底さが見て取れ、鞍部の堀切にしても東側にだけ降っており、尾根の遮断機能を強く期待することはできない。むしろ東側谷筋からの登城路としての機能が優先されていた可能性もある。周辺諸城跡に認められる畝状堅堀群も認められないことから、こうした要素が出てくる以前の城跡、あるいは役割の異なる城と考えられる。

(藤原)

堀切は東側斜面に向かってのみ設けられていたものと考えられる。

トレンチ2 ($3m \times 1m$) は、堀切の南側に位置する若干の緩傾斜面(仮に郭⑦とした)が郭であるかどうかの確認を行うために設定した。腐植土の下はすぐに黄褐色上の地山で、遺構・遺物は確認されなかった。平坦面として加工された痕跡も認められないことから、自然地形と考えられる。

トレンチ3 ($2.5m \times 1m$) は、小郭⑦が堀切が埋没したものである可能性もあったため、郭であることをはっきりさせるために設定した。その結果、堀切は確認されず、地山を水平に削りだした郭であることが確認された。岩脈のはしる地山(にぶい黄色土)の上には廃城後の自然

真備町200遺跡確認調査報告（一覧表No.2・12）

調査位置 真備町箭田字土師谷1892番外

調査原因 宅地造成工事 調査面積 12m²

調査期間 10.05.21・11.02.23 調査担当 小野・藤原

遺跡の概要 遺跡は小田川北岸において南に延びる丘陵の先端に立地している。倉敷市真備町箭田字土師谷地内の耕作地において須恵器、土師器、亀山焼などの土器片が採集されていることから古墳時代から中世にかけての散布地として周知されている。

調査の概要 今回の報告では、当遺跡において平成22年5月および平成23年2月に実施した2件の確認調査についてまとめる。調査は2×2mのトレンチを合計3か所設定して断面観察を中心に行つた。5月に調査したトレンチ1では、耕作土直下に後世の搅乱を受けた灰黄褐色土がみられ、円形土坑が検出された。径約40cmで深さ20cmが残存し、埋土から磁器の染付椀、瓦片が出土した。江戸時代の遺構と考えられる。灰黄褐色土に続く褐灰色土の下には、基盤層と考えられる黄褐色粘質土が堆積しており、上面で円形の土坑が検出された。検出面での規模は約90×60cmで、削平を受け、底の部分だけが残存する。埋土は炭化物を含む黒褐色土で、出土遺物から弥生時代に属する可能性が考えられる。5月に調査したトレンチ2では、耕作土直下に須恵器、中世土器、近世土器を少量含む灰色砂質土がみられる。その下には近世の遺物を含むオリーブ褐色砂質土および灰色砂質土が続き、両層を掘り込む土坑2基が土層断面で確認された。灰色砂質土の下には、基盤層である黄褐色粘質土が堆積している。

2月に調査を実施したトレンチ3では、耕作土の下に灰色粘質土がみられ、上位から須恵器片が出土した。この層の下位は次第にシルト質となる。耕作土の直下から土坑と溝が検出された。溝の埋土から古墳時代～古代の須恵器や土師質椀、土鍋、亀山焼などの中世の遺物が出土したが、層位や埋土の土質などから遺構の時期は近世より新しい時代と思われる。

今回の調査では、弥生時代の可能性のある遺構が検出されたが、保存状態が悪く、不確実なため今後検討を要する。残存する遺構は江戸時代のものが中心であり、それより古い時代の遺構の多くは破壊されている可能性が高い。

（小野）



トレンチ位置図 (S = 1/5,000)

しまじまと
島地北貝塚確認調査報告 (一覧表 No.4)

調査位置 玉島八島字西山下81番1外
調査原因 宅地造成工事 調査面積 8m²
調査期間 10.07.08 調査担当 鍵谷・小野

遺跡の概要 倉敷市玉島八島には、東西約1.5kmに小丘陵が連続して並ぶ「七島」と呼ばれる丘陵地がある。この丘陵は江戸時代前期の干拓による七島新田の完成までは浅海に浮かぶ島であった。七島に所在する遺跡としては、縄文貝塚の島地貝塚や中世の貝塚等がある。島地北貝塚は七島の西端部に立地する中世の貝塚で、付近一帯にはハイガイなどの貝殻が散布する。中世土器のほか古代の須恵器も採集されている。

調査の概要 確認調査は、開発予定区域の南北両端2か所に2×2mのトレンチを設定し、断面観察を中心に行った。開発予定区域の北端に設定したトレンチ1では、耕作土の下には、造成土と考えられる黄褐色土、暗灰黄色土が存在する。その下には黄灰色粗砂、灰オリーブ色粗砂、灰色細砂といった貝殻混じりの砂層が堆積している。これらの砂層は海浜の堆積層と考えられるが、粘土が少し含まれており、砂泥質の干潟が想定される。砂層に含まれる貝殻の密度は低く、下層にいくほど希薄になっている。貝殻で目立つのが極小のマガキと小形のハイガイで、他にヘナタリガイ、イボウミニナ、スガイ、オキシジミガイなどが見られる。いずれも干潟に生息する種類で、ハイガイ以外は近海に現生する。砂層の下には灰色シルトが堆積しており、ここから下層には貝殻は含まれない。各層から遺構、遺物は確認されなかった。

開発予定区域の南端に設定したトレンチ2では、耕作土の下に、オリーブ褐色砂質土、明黄褐色の風化花崗岩（地山）がみられた。地山上面は削平、整地されている。各層から遺構、遺物は確認されていない。

以上のように、開発予定区域では、遺構、遺物は確認されなかった。トレンチ2の地点は島の陸地部にあたり、トレンチ1の地点は海浜部であることが確認され、近世干拓以前の自然環境を考えるうえで参考となる知見が得られた。
(小野)



トレンチ位置図 (S = 1/5,000)

広江・浜遺跡発掘調査概要 (一覧表 No.6)

調査位置 広江1丁目9番1

調査原因 体育館耐震化工事

調査面積 80m²

調査期間 10.08.10 ~ 10.09.07

調査担当 小野・藤原

遺跡の概要 広江・浜遺跡は、かつての瀬戸内海の孤島、吉備の児島の西岸に位置する。浜の地名のとおり、水島灘に面した砂浜海岸に営まれた遺跡である。北側の低地には西方に向かって開く谷に扇状地が形成され、遺跡はその南側に立地している。背後の山は急斜面であるが、谷の南側斜面を数百メートル東に進むと後期古墳が点在するような比較的緩やかな斜面となっている。推定される遺跡の範囲は、市立第三福田小学校の校舎部分を中心とし、北西部は敷地の外に広がる大規模なものである。縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世と長期にわたり集落地として利用されていて、特に古墳時代後期から奈良時代にかけての土器製塩の遺跡としてよく知られている。

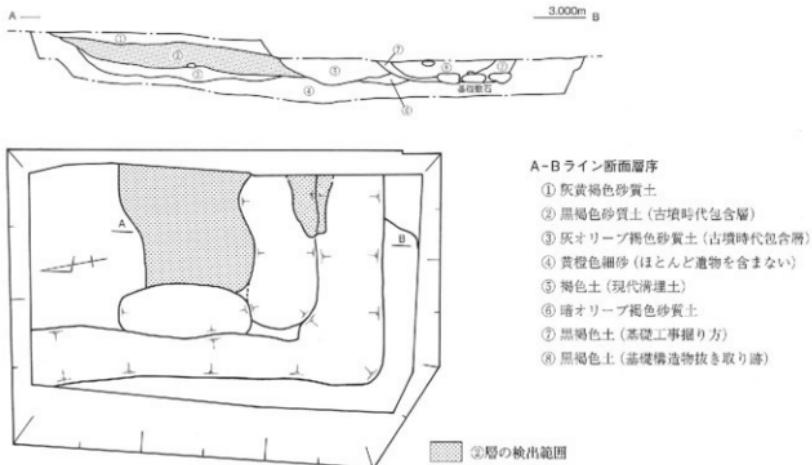
調査の概要 今回の発掘調査は、倉敷市立第三福田小学校屋内運動場のエントランス部分の改築工事を契機とする。昭和46年に竣工した同建物の建設工事については、事前の発掘調査などの対応がなされていないため、遺跡が破壊を受けながらも建物の下に残っていることを想定して発掘調査を実施した。

南区の概要 南区は、エントランスの南半分を占める玄関および更衣室に当たる部分である。コンクリートの基礎が密に築かれているため、調査区四方の壁面のうち断面観察ができるのは北壁面の一部分だけであった。遺構等の残存はあまり期待できなかったが、基礎工事が深部まで及んでない部分で黒褐色砂質土の遺物包含層が検出された。この層は、北から南に向かって緩やかに下る海砂層の斜面上の上に堆積したもので、調査区中央やや北寄りに堆積層の北端がある。南側と西側は破壊を受け



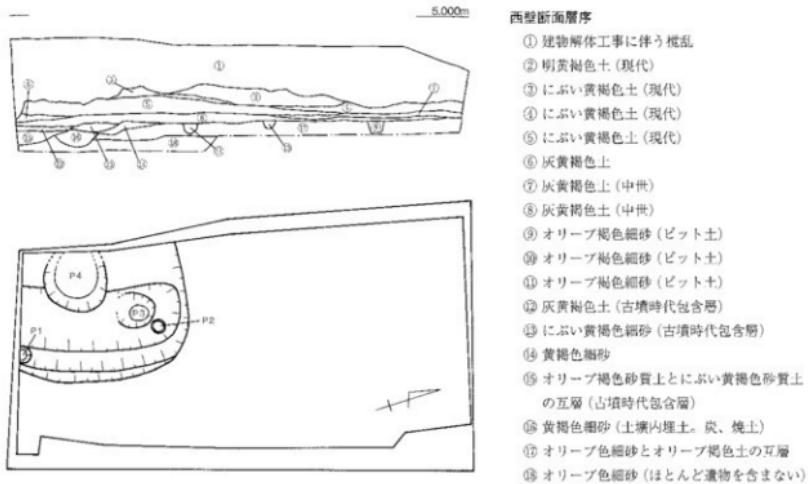
調査区位置図 (S=1/5,000)

ているが、東側は調査区外へと延び、現屋内運動場アリーナ部分の下にも及んでいると思われる。遺物包含層の上面は後世の搅乱を受けているが、現状の厚さは20~25cmである。遺物が含まれる密度は全体的に高く、炭粒を多く含む砂質土層全体が有機物等の影響で固く締まり、土器片同士も砂質土と交じり合いながら強固にくつづいている状況が観察された。出土遺物は古墳時代後期のものを中心とし、製塙土器、土師器、須恵器、少量の鉄製品や鉄滓、獸骨（イノシシ類の歯牙含む）などがある。これらは、製塙作業で生じた廃棄物や作業に関わる人々の生活の中から生じたゴミが混じり合ったものと考えられる。



南区平面図 (S=1/100)・断面図 (S=1/50)

北区の概要 北区は、エントランスの北半分を占める器具庫に当たる部分である。建物の基礎伏図を見るとコンクリートの基礎がロ字状に囲む形状であるため、その内側の破壊が及んでいないと予想される部分について調査を行った。地層堆積のようすは北壁、西壁、南壁で観察することができた。基本的な層序の概要を西壁断面図で上から順にみると、旧表土および耕作土、中世の堆積で搅乱を受けた層、古墳時代後期の遺物密度の低い包含層、淡色砂層と濃色細粒土の互層すなわち堆積層が海水等によって侵食を受けて再堆積した層と思われ、縄文時代から古墳時代の遺物を含む層。そして、ほとんど遺物を含まない海砂層の順となっている。遺構としては、建物跡1棟が検出された。発見当初この遺構を、南区で検出されたものと同様の遺物包含層と認識したが、調査が進むにつれて、竪穴状のくぼみの中に製塙作業の廃棄物や生活ゴミを廻棄したもので、床面には柱穴(P1、P2)、炉穴(P4)を伴うことが確認された。そのため、この遺構を建物跡1と呼ぶことにする。竪穴の東側は再堆積層を掘り込む様子が断面で観察されたが、北側の輪郭は崩れているためなのか明瞭ではない。そして南側部分は南北調査区の間に存在すると考えられる。これらのことから平面形は一辺4m程度の隅丸方形形状と捉えられる。壁体溝は確認できなかったが、床面は海砂なので排水のための溝は不要であろう。



床面ほぼ中央に位置するP4の内部や周囲には炭を含む焼土が充満し、火を焚いた痕跡が明瞭に残されていた。このような状況から、物跡1は竪穴住居と同様の構造と考えられる。しかし、砂地に掘った竪穴を維持するのは容易ではなく、柱の固定も十分とはいかないため長期にわたる使用は困難と思われる。そこで、雨風や日差しを遮れば事足りる程度の簡易仕様、例えば上屋だけの建物であった可能性も含めて考える必要がある。P4には粘土貼りや石敷もなく、ただ砂地を掘りくぼめて火を焚いていたような状況であった。この小さな建物から煙が上がり、熱をもった灰や炭が炉穴からあふれて床に広がる状況を想像すると、休息や寝泊りには不向きで、専ら炊事場として機能したような印象を受ける。出土遺物については、古墳時代後期の製塙土器、土師器、須恵器、モモの核などがある。これらは、建物跡1が廃絶された段階で、製塙作業の廃棄物と生活から出たゴミと一緒に投棄されたものが大部分である。

まとめ 以上のように、今回の調査地において古墳時代後期の土器製塙に関連した遺構、遺物包含層が検出された。建物跡1については、製塙作業に従事する人々の生活にかかる炊事場と考えられる。製塙炉と炊事場が近接しているということは、燃料・炎を共用しやすいという点で合理的である。製塙作業の廃棄物と生活ゴミが混ざり合う状況、言い換えれば生産活動と消費生活が同じ空間で行われていることが当遺跡の特徴である。今回の調査でモモの種と思われる種子数点が見つかったことから、活動の季節は、製塙作業に最適の夏期を含んでいることがわかり、この期間にヒト、モノを集中させて操業したと推測される。

(小野)

屋敷ノ内古墳確認調査報告 (一覧表 No.7)

調査位置 生坂2196番

調査原因 道路改良工事

調査面積 4.2m²

調査期間 10.09.14 ~ 10.09.16

調査担当 健谷・藤原

遺跡の概要 山陽自動車道倉敷インターチェンジの東方に位置する標高20m程の小丘南斜面に立地している。2002年の分布調査によって発見されたもので、地元では昔から「塚」と呼ばれており、戦時中には軍関係者が調査に来たとも伝わっている。古墳の位置する生坂地区は、北へ水別峠を越えるとすぐに総社市となり、こうもり塚古墳・国分寺等が所在する吉備中枢部に至ることができる。倉敷インターチェンジ建設に伴って調査された菅生小学校裏山遺跡からは大陸とのつながりを示す陶質土器も出土し、原津という港を暗示させる字も存在する。また、国道429号線を挟んだ西方の山裾には、漆喰を使用した横穴式石室を備える終末期古墳である兼池東1号墳も存在している。

調査の概要 現状から見た古墳はかなり破壊を受けているようであり、畑の石垣に取り込まれる形で残存していた。調査は占墳であることを確認する目的で3か所のトレンチを設定して実施した。

トレンチ1 (2×1m) は天井石と推定された巨石の北側に設定した。その結果、西側に面を揃えた石列が検出され、横穴式石室の東側壁と推定された。さらに確実を期すため、トレンチの北端を西側に幅50cmほど拡張したところ、西側の畑に面する石垣に認められた立石状の石材の続きが、石列の最も北側の石と90度交差する形になることが判明した。これよって、立石状の石材は石室の奥壁であると確認された。

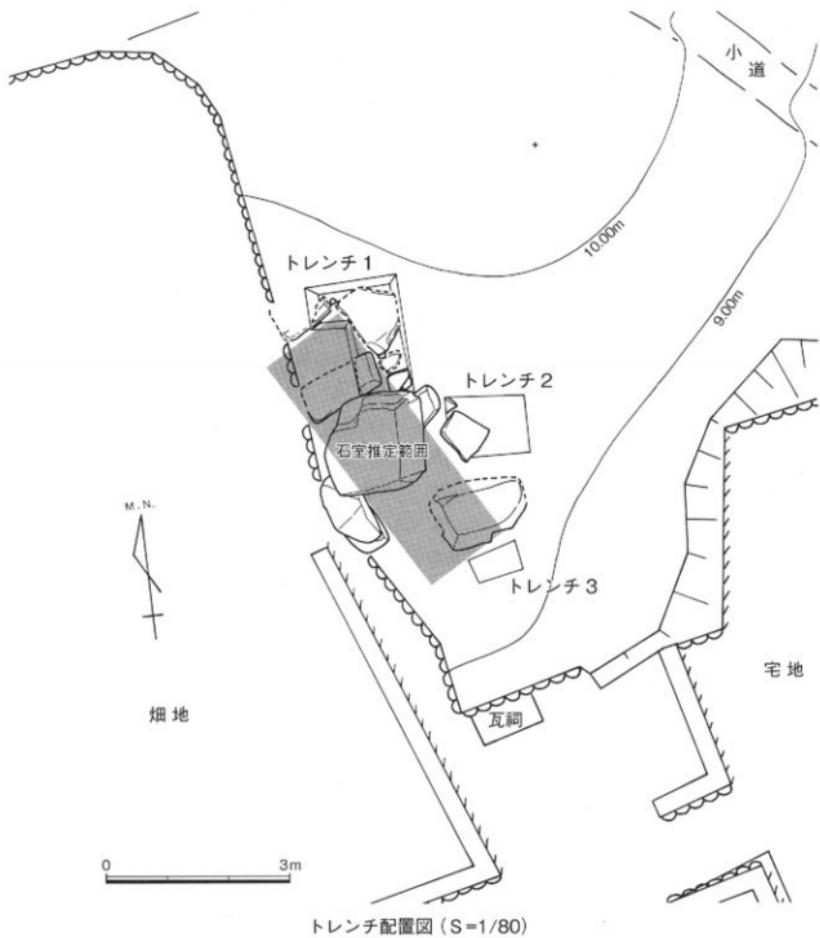
トレンチ2 (1×1m) は、東側の側壁と墳丘盛土の検出を目的として、天井石の一枚と推定された巨石の東側に設定した。地表から約1.2mの深さまで掘り下げたが、最も深い黄灰色土層からも近世の瓦などが出土し、墳丘盛土あるいは地山を検出することはできなかった。

また、トレンチの西側に係る石材は、当初東側壁の一つと考えていたが、動かされている可能性が高くなった。よってこのトレンチでは、元位置を保つ東側壁は未確認である。

トレンチ3 (1×0.5m) は、石室東側壁の続き及び石室前庭部の土層を確認する目的で設定した。地表から約0.7mの深さで、かたくしまった褐灰色土層を確認した。調査範囲が限られているため、不明確ではあるがこれが墳丘盛土か地山の可能性がある。しかし、東側壁の続きを確認できず、石室



古墳位置図 (S=1/5,000)



石材との関係は不明である。

今回の調査の結果、トレンチ1で古墳の奥壁・東側壁の一部が確認された。また、表面観察によつて西側側壁の一部が石垣に取り込まれた状況で残存していることが判明した。これらのことから屋敷ノ内古墳の横穴式石室は、長さ4m以上、幅1.4~1.6mの規模を有すると推定される。しかし、いずれのトレンチでも確実な墳丘盛土および地山は確認できず、特にトレンチ2ではかなり深いところまで新しい時期の遺物が出土することから、墳丘盛土が流出して石室の大部分が露出していた時期があったのではないかと推定される。天井石と推定される石も三枚が残存しているが、いずれも崩れるか崩れかかっており、残存状況は極めて良くないと言える。

(藤原)

新熊野山遺跡発掘調査概要 (一覧表 No.13)

調査位置 林683番

調査原因 防災施設設置工事 調査面積 187m²

調査期間 11.03.04～11.03.18 調査担当 小野・藤原

遺跡の概要 新熊野山遺跡は、児島湾に注ぐ郷内川が形成した小平野である郷内盆地北部に立地する中世の遺跡である。遺跡周辺は「新熊野山」として県の史跡に指定されており、国・県指定の重要文化財である熊野神社本殿6棟、五重塔、五重塔、五重塔なども建ち並んでいる。このうち熊野神社第二殿は明応元年(1492)の建築で中世に遡るものである。平成19年度に実施した長床拝殿再建工事に伴う確認調査では、地表下90cmで中世のものと考えられる整地層が確認されている。

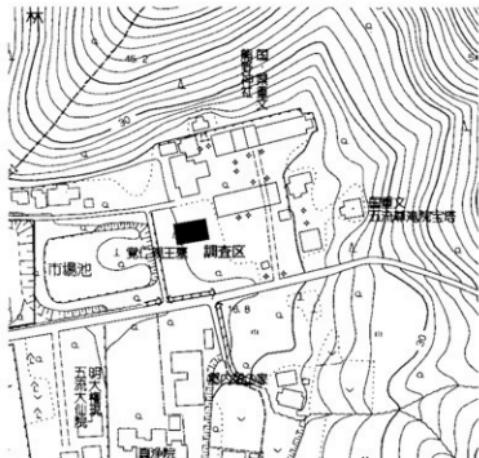
調査の概要 今回の調査は防災施設設置工事に伴って実施したものである。平成22年10月27日に確認調査を実施したところ、地表下60cmで平成19年度の調査時に確認されたものと同様の整地層が検出されるとともに、整地層下の造成土から土師質高台付椀などの遺物が出土した。これを受け工事の際に掘削を行う東西17m×南北11mの範囲について整地層上面の遺構を確認することを主眼に発掘調査を実施した。なお、造成土以下については工事中に立会調査を行った。

調査の結果 特に調査区西半部において整地層上面に多くの土師質土器片が存在することを確認すると共に、溝1本、土壤4基、Pit 30か所の遺構を検出することができた。主な遺構の概要は以下のとおりである。

(溝) 調査区東辺に沿って南北に延びており、現地表に近い層から掘り込まれている。「明治四辛未年三月児島郡林村熊野神社官林社地絵図面」には、長床の北側の東西にはしる溝(現存)が90度曲がつて南の用水路(現存)につながっている様子が描かれており、これに該当するものと考えられる。

(土壤) 土壌1は、長さ1.8m、幅0.96m程の隅丸長方形を呈し、検出面からの深さは約20cmである。長軸を南北に置いている。内部には人頭大の花崗岩球2個があったほか、鉄釘なども出土しており、土壙墓の可能性が考えられる。

土壙3は、長さ4m以上、幅2.0m程の隅丸長方形を呈し、検出面からの深さは約50cmである。埋土には中国陶磁器や鉄製品も含まれ、特に調査区南壁に近い部分では灯明皿や土師質土器碗、鉢等が集中して出土している。



調査区位置図 (S=1/2,500)

〈Pit〉調査区の西半に分布する Pit 1～14は、直径50～80cm程の円形で深さは15～30cm程である。いずれも径に比して浅く柱穴の可能性は低く、その並びも建物を構成するものとは考えにくい。

Pit 15～17は、土壤3の北側で検出された。Pit 15の平面形は、50×40cm程の楕円形で、土壤3によって南側を切り込まれている。粘質土が充填されており、8個体以上の土師質土器碗が埋納されていた。Pit 16も平面形は35×25cm程の楕円形で、やはり粘質土が充填されており、3個体以上の土師質土器碗が埋納されていた。何らかの祭祀行為（地鎮？）に伴うものと考えられる。

Pit 27～29は調査区の東端に南北に並んで検出された。最も北に位置するPit 27では底に瓦が敷かれており、柱の痕跡も確認された。Pit 間の距離は1.7～2.0mである。建物であるとすると、東側の調査区外に続いていると考えられる。

今回の調査で確認した遺構はPit を除けばその密度も低く、性格も不明なものが多い。反面、遺物としては多くの土師質土器が出土しており、その年代が注目される。まず、整地層の下で確認された厚さ2m以上に及ぶ造成土中からは、高台を持つ土師質土器碗が出土している。径11cm代、高さ3～3.5cmで14世紀前半に比定される。次に、整地層を切り込んで掘削されたPit 15から出土した土師質土器碗は径10cm代、深さ3cmで、すべてに高台ではなく底部に窪みがあるものばかりである。14世紀中葉の土器と考えられる。整地層の上面では完形の碗を含む土師質土器片多数が張り付くような状態で検出された。この碗の中にも高台を持つものは無いが、窪みのあるものとないものがあり、ないもののほうが数が多くなっている。最後に土壤3からは16世紀後半の輸入陶磁器等とともに、径6～7cmの土師質小皿や径8.5～9cmで底部に窪みがなく、口縁部外側直下に稜線を持つ碗などが出土している。

新熊野山は、役小角が伊豆大島に流されたときに、その難を逃れ、海路児島にたどり着いた高弟たちが大宝元年(701)に開いたとされる。仁治元年(1240)に後鳥羽上皇の供養のために築かれたと伝えられている石造大塔は、現在国の重要文化財に指定されている。15世紀後半には応仁の乱の余波を被って堂宇が焼失するが、15世紀末の明応元年(1492)に再興され、天正年間には長床が再建されたと言われている。近世になると、明和6年(1769)の長床(焼失)再々建、文政3年(1820)の三重塔再建、天保11年(1840)の本殿(第一殿・第三～六殿)の再建と現在まで残される堂宇が揃っていく。このように新熊野山の歴史は、特に近世以前について断片的にしかわかっていない。今回の調査によつて記録の空白期である14世紀前半に境内の大造成が行われたことが判明したことは重要な成果と言えるだろう。また、遺物から16世紀後半以後と考えられる土壤3は、天正年間に行われた長床再建に関係する可能性もあり注意を要する。

(藤原)



Pit 15遺物出土状況



調査区完掘状況(西から)

しおなす
塩生遺跡確認調査報告 (一覧表 No.14)

調査位置 児島塩生1945番4外

調査原因 ポンプ場新設工事 調査面積 8m²

調査期間 11.03.24

調査担当 小野・藤原

遺跡の概要 遺跡は、倉敷市児島塩生の旧海岸に形成された砂州の上に立地している。かつてこの海岸には水島灘に面した白砂青松の浜辺が広がり、半農半漁の生活が営まれていたが、沖に水島工業地帯(C地区)が建設されたため環境は大きく変貌した。塩生遺跡は、古墳時代後期の師楽式製塩土器を多量に出土する製塩遺跡としてよく知られ、中世の製塩遺構である炉跡や粘土貼りの円形土坑も検出されている。また、弥生時代前期の壺形土器が出土していることから、遺跡の東側にある後背湿地を開拓する初期段階の水田を営む集落があった可能性が指摘されている。

調査の概要 今回の調査対象地は、本荘公園・本荘公民館の西隣で、旧塩生港の一角に建設された本荘漁業協同組合の跡地である。確認調査は2×2mのトレンチを2か所設定し、断面観察を中心に行なった。調査対象区域の北端に設定したトレンチ1での層序は、腐植土、マサ土と砂による造成土となっている。造成土には大型のコンクリート片が混入しているため、地表下約1mで掘削を終了した。

調査対象区域の南寄りに設定したトレンチ2の層序は、マサ土による造成土層、碎石整地層、花崗岩バイラン土・砂による造成土層となっている。トレンチの深部で旧海岸の海砂層の検出を予想しながら地表下2mまで掘り下げるも海砂層には至らなかった。のことより、塩生港建設の際に砂浜の掘り下げが行われていることがうかがえる。

以上のように今回の調査対象地では、塩生港建設により旧海岸の海砂層が削り取られ、旧地形が失われていると考えられる。遺跡の立地する砂州の西端は、本荘公園・本荘公民館の西境付近にあり、もともと当該地には遺跡が及んでいない可能性が高い。

(小野)



V 寄贈図書一覧 (2010.4.1 ~ 2011.3.31)

北海道	
札幌市埋蔵文化財センター	K518 遺跡、T539 遺跡、S329 遺跡
千歳市埋蔵文化財センター	末広 2 遺跡、美々貝塚北遺跡における考古学的調査、末広 2 遺跡（第 2 次調査）
北海道大学アイヌ・先住民研究センター	アイヌ文化に関する研究の推進・連携体制構築の検討事業報告書
青森県	
青森県教育委員会	世界遺産登録を目指す北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群、The Group of Jomon Archaeological Sites in Aomori Prefecture
宮城県	発掘調査からみた古代地方都市の諸要素
多賀城市埋蔵文化財調査センター	縄文やまがた第 45 号～第 46 号
山形県	米沢市文化財年報 No.22、米沢城「本丸跡」発掘調査報告書、川井平館南遺跡・川井平館北遺跡発掘調査報告書、遺跡詳細分布調査報告書第 23 収集
(財) 山形県埋蔵文化財センター	歴史遺産研究 No.5/2009、置賜地域の終末古墳 3
米沢市教育委員会	
東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科	まる さんかく しかく 第 5 号～第 8 号
福島県	
(財) 郡山市文化・学び振興公社	埋蔵文化財部 年報 29
茨城県	土浦市立博物館紀要第 20 号
(財) 茨城県教育財団	筑波大学歴史・人類学専攻
土浦市立博物館	筑波大学先史学・考古学研究第 21 号
筑波大学歴史・人類学専攻	
栃木県	
小山市教育委員会	祇園城跡 II、西山遺跡 III
佐野市教育委員会	唐沢山城跡調査 II、佐野城跡（春日岡城）IV、佐野城跡（春日岡城）V、佐野市の文化財保護、佐野市の文化財保護、堀米遺跡 III、ゴロノミヤ遺跡 V、領城跡
埼玉県	
吉見町埋蔵文化財センター	町内遺跡 4
飯能市教育委員会	握り起こせ！地中からのメッセージ
富士見市教育委員会	市内遺跡発掘調査 III
千葉県	
(財) 印旛都市文化財センター	フィールドブック vol.29 ～ vol.30、戦国 INBA ～変遷する城と館～、第 13 回遺跡発表会発表要旨、財團法人印旛都市文化財センター一年報 24、印旛都市文化財センター研究紀要 7、郷内遺跡・天神遺跡、萩原遺跡、下福田城跡、次郎丸遺跡（第 7・8・12・13・14 次調査）、佐倉城跡（延博第 9 次）、台方官代遺跡、キサキ遺跡 4 地点、船形手黒遺跡、駒形北遺跡（第 3 地点）、野毛平東方遺跡・野毛平上之内遺跡・野毛平泉台 I 遺跡・野毛平泉台 II 遺跡・御山遺跡（第 2 地点）、岩富町梨ノ木遺跡（第 2 次）
(財) 千葉市教育振興財团	埋蔵文化財調査センター一年報 20 ～ 22、千葉市古山遺跡・千葉市向城跡・千葉市杉葉見遺跡・千葉市圓生貝塚・千葉市土氣東遺跡群調査概報・千葉市昭和の森遺跡群 II・千葉市大森第 1 遺跡・千葉市和泉町遺跡群・千葉市辻田遺跡・千葉市房地遺跡・房地占墳・千葉市台門貝塚・千葉市土氣城跡
市川市教育委員会	山ノ後遺跡・須和田遺跡・国府台遺跡第 120 地点発掘調査報告書・平成 16 ～ 21 年度市川市内遺跡発掘調査報告・下慈国分寺遺跡- 第 77 次発掘調査報告書-印内台遺跡群（49）、夏見台遺跡（13）、夏見台遺跡（49）
船橋市教育委員会	平成 21 年度野田市内遺跡発掘調査報告
野田市教育委員会	国立歴史民俗博物館研究報告第 157 集～第 160 集・第 162 集
国立歴史民俗博物館	
東京都	
宮内庁書陵部	書陵部紀要第 61 号、書陵部紀要第 61 号（陵墓篇）

文化庁	埋蔵文化財関係統計資料、発掘調査のてびき-集落遺跡発掘編- / -整理・報告書編- 調訪台・日暮里延命院貝塚遺跡、町屋四丁目尖揚遺跡 G 地点発掘調査報告書 国際繩文学会会紀要第 3 号 古代第 122 号 明治大学博物館年報 2008 年度～ 2009 年度 青山学院大学文学部史学研究室 新潟県 新潟市埋蔵文化財センター
富山県	手代山北遺跡第 2 ・ 3 次調査、中田遺跡第 2 次調査、上大川遺跡第 2 次調査、大沢谷内北遺跡第 3 次調査
(財) 富山県文化振興財团	とやま発掘だより-平成 21 年度 発掘調査速報-、平成 21 年度埋蔵文化財年報、富山考古学研究第 13 号、北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地調査報告 (10)
富山県埋蔵文化財センター	井口遺跡出土品集、富山県埋蔵文化財センター年報-平成 21 年度、埋文とやま vol.111 ～ vol.114 、繩文土器の静と動、繩文時代中期の石斧つくりのムラ 浦山寺遺跡【土器編】、繩文時代中期の石斧つくりのムラ 浦山寺遺跡 出土品集 1 【土器編】、下佐野遺跡発掘調査報告書
小矢部市教育委員会	平成 21 年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報、桜町遺跡発掘調査報告書、石名田木舟遺跡発掘調査報告書、桜町遺跡発掘調査報告書
砺波市教育委員会	徳万頼成遺跡発掘調査報告、砺波市遺跡詳細分布調査報告 6 -般若・東般若- 白石遺跡発掘調査報告 IV 、射水市内遺跡発掘調査報告 II 、太閤山カントリークラブ造成地内遺跡群発掘調査報告
石川県	いしかわの遺跡 No.33 ～ No.35 、乙丸遺跡、杉平円山 1・2 号墳、国分遺跡、徳丸ジョウヤダ遺跡、大谷中学校東遺跡、金沢城跡 1 、乾遺跡、石川県埋蔵文化財情報第 22 号～第 23 号、年報 11 真膳遺跡 2010 金沢大学考古学紀要第 31 号
能登町真膳遺跡総文館	木崎山城跡・木崎遺跡・竹原弁才天遺跡・猪谷田畠遺跡・上吉野法善寺遺跡・湯谷砂田遺跡・下市古墳・前谷遺跡・高柳・下安田遺跡・中角遺跡 3 、年報 24 平成 16 年度～平成 19 年度年報・福井城跡Ⅲ・河水遺跡
金沢大学文学部考古学研究室	小浜市重要遺跡確認調査報告書 III 一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告 X 、一乗谷朝倉氏遺跡資料館紀要 2009 、一乗谷朝倉氏遺跡 40
福井県	坂田遺跡・物見塚遺跡・車地藏遺跡・石動遺跡・北中原遺跡・中新居遺跡 山梨県史跡勝山城跡
福井市文化財保護センター	一般国道 18 号（坂城更埴バイパス）埋蔵文化財発掘調査報告書 2 、国道 474 号線（飯喬道路）埋蔵文化財発掘調査報告書 2 、国道 474 号線（飯喬道路）埋蔵文化財発掘調査報告書 4
小浜市教育委員会	長野市埋蔵文化財センター報 No.20 、浅川扇状地遺跡群 吉田町東遺跡 (3) 、駒沢新町遺跡 (3) 、小島・柳原遺跡群 水内坐一元神社遺跡 (5) 、中俣遺跡 (4) 史跡松本城西絶堀土塁跡、沢村遺跡、中山古墳群、獣形原遺跡、歛形原壇址、小松下遺跡、松本城下町飯田町第 1 次発掘調査報告書、桐原城址、海岸寺遺跡 大栗沢遺跡、平出丸山遺跡 II 、神谷所遺跡 II 、神谷所遺跡 III 、羽場城跡遺跡 長野県立歴史館たより vol.63 ～ vol.66
福井県立歴史館	史跡加納城跡 2 、加納城跡の発掘
岐阜県	
(財) 岐阜市教育文化振興事業団	

岐阜県文化財保護センター 静岡県 (財) 静岡県埋蔵文化財調査研究所	東町3・4号古窯跡 西の谷遺跡、秋葉林遺跡Ⅱ、衣原古墳群・衣原遺跡、衣原古窯群、中ノ合イセ山遺跡、中ノ合イセ山古墳群・中ノ合遺跡、合代鳥丘陵の古墳群、駿河山遺跡Ⅱ、駿河山遺跡Ⅲ、庵原城跡、下高原遺跡、研究紀要第16号、沼津市井出、石川神ヶ沢の遺跡群、細尾遺跡、的場古墳群・的場遺跡、天ヶ澤遺跡・古木戸A遺跡・古木戸B遺跡、桜塚上遺跡I・富士山・愛鷹山麓の遺跡、富士山・愛鷹山麓の古墳群・富士石遺跡I、研究紀要第17号 特別史跡遠江国分寺跡 平成21年度発掘調査のあらまし、市内遺跡確認調査報告書、丁子遺跡発掘調査報告書 新堀遺跡Ⅱ・Ⅲ、袋井市内遺跡発掘調査報告書Ⅲ～Ⅳ 逆田平21号墳・浜松城跡第4次、半田山D16・E9号墳、笠井遺跡2次、梶子遺跡11次、烏居松遺跡5次	
愛知県 (財) 潟戸市埋蔵文化財センター 安城市埋蔵文化財センター 南山大学人類学博物館 安城市歴史博物館	赤津長根第1・2号窯跡資料調査報告 別郷廃寺・河原遺跡・向田遺跡・山崎遺跡・山崎城址 南山大学人類学博物館紀要第28号～第29号 博物館ニュース No.76～No.78、村経図 I～安城北部の村々～、風まかせ 東海道中-江戸時代の旅人と街道、安城御影、年報第19号 名古屋市見晴台考古資料館 豊田市郷土資料館	名古屋市見晴台考古資料館年報27、尾張戸神社古墳・中社古墳・熱田神宮内遺跡Ⅱ、尾張元興寺跡第14次発掘調査報告書、則越町遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書、山の田古墳発掘調査報告書、埋蔵文化財調査報告書 60～61 豊田市郷土資料館だより No.71～No.75、豊田市の縄文遺跡、今町宮之後遺跡、宮平遺跡、上向伊田窯、平成20年度市内遺跡発掘調査事業概要報告書、高根越1・2号窯跡、柄原遺跡、祝い窓・贈り物・芸能- 名古屋大学文学部研究論集167、紀元前1千年紀考、東山61号窯発掘調査報告書
三重県 三重県埋蔵文化財センター	研究紀要第19-1号、経塚中世墓発掘調査報告、宮ノ沖遺跡発掘調査報告、近畿自動車道名古屋神戸線（四日市JCT～亀山西JCT）建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査、川方城ノ越・川方川原遺跡発掘調査報告、一般国道23号中勢道路埋蔵文化財発掘調査概報22	
松阪市教育委員会 伊賀市教育委員会 志摩市教育委員会	田村1号墳発掘調査報告書、淨眼寺境内遺跡範囲確認調査報告、平成20年度松阪市文化財センター年報、平成21年度松阪市文化財センター年報 伊賀市文化財年報6、法華堂東館跡発掘調査報告、川上ダム建設事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書II～III、上野城跡（11次）発掘調査報告 阿津里貝塚試掘調査報告	
滋賀県 守山市立埋蔵文化財センター	下長遺跡第22次発掘調査報告書、益須福寺関連遺跡発掘調査報告書、播磨田東遺跡第17次発掘調査報告書、下長遺跡発掘調査報告書、平成18年度国庫補助対象遺跡発掘調査報告書、平成19年度国庫補助対象遺跡発掘調査報告書、平成20年度国庫補助対象遺跡発掘調査報告書、下之郷遺跡確認調査報告書IV～VI、欲賀南遺跡第4次発掘調査報告書 おうみ文化財通信 Vol.4～Vol.6、甲賀郡中惣の世界-神と城そして武士-、関津遺跡-近江の南の玄関口-、琵琶湖の港と船、縄文人のエコロジーとエコノミー、三宅北遺跡	
(財) 滋賀県文化財保護協会	手原遺跡発掘調査報告書、辻遺跡発掘調査報告書、林遺跡発掘調査報告書、栗東市埋蔵文化財調査報告2008（平成20）年度年報、はくつ2009、上鉤遺跡発掘調査報告書	
(財) 栗東市文化体育振興事業団	高野遺跡・高野館遺跡、中沢遺跡（19次）、平成21年度市内遺跡の調査、地蔵遺跡（1次）五個莊田遺跡（10次）猪子遺跡（1-2次）斗西遺跡（25次）千	
東近江市埋蔵文化財センター		

多賀町立文化財センター 滋賀県教育委員会	里遺跡、正ちゃんといっしょに能登川の遺跡探検ものがたり（改訂版）、八日市地区の遺跡探検、雪野山古墳、八幡社古墳群 国指定名勝多賀神社奥書院庭園保存修理工事報告書 平成 20 年度滋賀県埋蔵文化財調査年報、金貝遺跡・肥田城跡・肥田西遺跡・鶴田遺跡・関津遺跡Ⅲ、淨土屋敷遺跡 I、金貝遺跡・松原内湖遺跡 II、針氏城遺跡・井戸遺跡その 1・2、番場遺跡、夏見城遺跡 佐加太第 30 号～第 32 号
米原市教育委員会 野洲市教育委員会	平成 22 年度野洲市内遺跡発掘調査年報、平成 22 年度野洲市埋蔵文化財調査概要報告書 2
竜王町教育委員会	竜王町の遺跡めぐり星ヶ崎城跡、竜王町の歴史めぐり 6. 苗村神社東本殿、竜王町の歴史めぐり 7. 境内社十押郎社本殿、猿戸遺跡第 3 次発掘調査報告書、鏡山周辺でみられる古墳、雪野山周辺の古墳めぐり、小口遺跡第 1 次発掘調査報告書
安土町教育委員会	安土町文化財調査報告書、老蘇遺跡発掘調査報告書、安土町内遺跡緊急発掘調査概要報告書、安土町内遺跡緊急発掘調査概要報告書、安土町内遺跡緊急発掘調査概要報告書、安土町内遺跡緊急発掘調査概要報告書、安土町内遺跡緊急発掘調査概要報告書、安土城下町遺跡十七地区発掘調査報告書、安土町内遺跡緊急発掘調査概要報告書
滋賀県立安土城考古博物館 大津市歴史博物館 滋賀県立大学人間文化学部 京都府	おおとみち第 71 号～第 74 号 大津歴博など No.80 ～ No.81 人間文化第 27 号
(財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター (財) 京都市埋蔵文化財研究所	京都府埋蔵文化財情報第 111 号～第 113 号 革嶋館跡、法住寺殿跡・六波羅政事跡・方広寺跡・長岡京右京二条三坊一・八町跡、上里遺跡、羽束衛志水町遺跡・長岡京跡、史跡法鏡寺境内、平安京左京八条三坊九町跡、史跡教王護国寺境内、平成 19 年度財团法人京都市埋蔵文化財研究所年報、史跡旧二条離宮跡（二条城）、史跡旧二条離宮跡（二条城）、常盤仲之町遺跡、名勝 清風莊庭園、常盤仲之町遺跡、平安京左京九条大路跡、烏丸町遺跡、平安京左京三条三坊十町跡、烏丸御池遺跡、二条殿御池城跡、平安宮中務省跡、上京遺跡、村ノ内町遺跡、常盤仲之町遺跡、広隆寺旧境内、龍安寺御陵ノ下町遺跡、大藪遺跡、大藪城跡、上里遺跡 I 年輪都城 22 京都府埋蔵文化財調査報告書（平成 21 年度）
（財）向日市埋蔵文化財センター 京都府教育庁 京田辺市教育委員会 京都市文化芸術都市推進室	堀切古墳群発掘調査報告書 II ～ III 京都市内遺跡発掘調査報告 平成 21 年度、京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成 21 年度、京都市内遺跡試掘調査報告 平成 21 年度 南丹市文化財調査報告書（平成 20 年度）、南丹市内遺跡発掘調査報告書 平成 21 年度
南丹市教育委員会	滝谷古墳群、歴史探訪丹後の古代中世社会を探る IV
与謝野町教育委員会 南丹市立文化博物館	南丹市立文化博物館だより 第 5 号～第 6 号、映像文化の足跡～光学玩具から映画まで～、鉄道～果てしなく続く路～
花園大学考古学研究室 京都橘大学	平安京右京二条三坊八町 京都橘大学 文化財調査報告 2009
大阪府	
(財) 八尾市文化財調査研究会	小阪合遺跡（第 43 次調査）、八尾南遺跡（第 32 次調査）、八尾南遺跡（第 33 次調査）、太田遺跡（第 9 次調査）ほか、平成 21 年度（財）八尾市文化財調査研究会事業報告、東郷遺跡 九頭神遺跡Ⅲ
(財) 枚方市文化財研究調査会 高槻市立埋蔵文化財調査センター	たかつき文化財地図、安満遺跡～平成 21 年度確認調査速報、高槻市文化財年報 平成 19・20 年度、鳩上遺跡群 34

泉南市埋蔵文化財センター (財) 大阪府文化財センター	泉南市遺跡群発掘調査報告書X X VII 要覧-平成 21 年度、年報平成 20 年度、大阪文化財研究第 35 号～第 36 号、太井遺跡・余部日置荘遺跡、津田遺跡Ⅱ、吹田操車場跡遺跡Ⅳ、研究調査報告第 7 集、池島・福万寺遺跡 8、池島・福万寺遺跡 9、上の山遺跡Ⅳ、池内遺跡 堺の誇り 土塔と行基、平成 21 年度国庫補助事業発掘調査報告書 1、平成 21 年度国庫補助事業発掘調査報告書 2 御崩山古墳 旗塚古墳、百舌鳥古墳群の洞塚 3、堺環濠都市遺跡 (SKT989) 発掘調査概要報告、平成 20 年度市内遺跡立会調査概要報告、大保遺跡 (DTH-6)・太井遺跡 (TAI-3) 発掘調査概要報告、 文化財ニュース録 No.36、豊中市埋蔵文化財発掘調査概要-平成 22 (2010) 年度-、 豊中市原田城跡史跡建物保存及び整備工事報告書 特別史跡百濟寺跡、枚方市埋蔵文化財発掘調査概要 2009、楠葉台場跡、東大阪市下水道事業関係発掘調査概要報告-平成 21 年度-、東大阪市埋蔵文化財発掘調査概要-平成 21 年度-
堺市教育委員会	
豊中市教育委員会	
枚方市教育委員会	
羽曳野市教育委員会	
富田林市教育委員会	古市遺跡群 X X X 、古市遺跡群 X X X I 、羽曳野市内遺跡調査報告書-平成 13 年度-、羽曳野市内遺跡調査報告書-平成 18 年度-、庭島古墳発掘調査報告書 喜志西遺跡Ⅲ、平成 21 年度富田林市内遺跡群発掘調査報告書
貝塚市教育委員会	要家文書を見る岸和田藩領の村とその生活、貝塚市遺跡群発掘調査概要 32
泉佐野市教育委員会	泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要第 58 号～第 65 号、平成 21 年度泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要、上町遺跡
交野市教育委員会	平成 21 年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要
池田市教育委員会	池田市埋蔵文化財発掘調査概要 2009 年度
茨木市教育委員会	平成 21 年度発掘調査概要
河内長野市教育委員会	河内長野市埋蔵文化財調査報告書 X X IX
八尾市教育委員会	八尾市内遺跡平成 21 年度発掘調査報告書、やおの中世-村々の成立とくらし-、やおの歴史遺産「高安千塚」、高安古墳群調査報告書 出土遺物整理調査 服部川支群西側地区則利用調査他、高安古墳群調査報告書 出土遺物整理調査 服部川支群東側地区則利用調査他
大阪府立弥生文化博物館	MASK 仮面の考古学、弥生文化博物館要覧-平成 21 年度-、縦体大王の時代、大阪府立近つ鳥羽博物館報 13、博物館だより-アスカダイア・古墳の森 vol32 ～ vol33、鉄とヤマト王権、歴史発掘 大阪・大阪府発掘調査最新情報- 博物館だより No.41 ～ No.43、古代浜津国考-難波宮と吹田-、わかりやすい吹田の歴史本文編、平成 21 (2009) 年度埋蔵文化財緊急発掘調査概要、吹田市埋蔵文化財発掘調査報告集 1、災害から地域造営をみなおす-古志部神社の復興- 古代西除川沿いの集落景観
吹田市立博物館	なにわ恩博カレンダー No.36 ～ No.37、大阪歴史博物館年報 平成 21 年度
大阪府立狹山池博物館	平成 21 年度八尾市立歴史民俗資料館報・研究紀要 第 21 号
大阪歴史博物館	長尾山古墳発掘調査報告書
八尾市立歴史民俗資料館	志学台考古第 10 号、文化財研究第 10 号
大阪大学考古学研究室	
大阪大学	
兵庫県	発掘調査速報展 2010
姫路市埋蔵文化財センター	播磨国風土記の世界～攝保護流域を中心として～
たつの市埋蔵文化財センター	雲井遺跡第 28 次発掘調査報告書、兵庫津遺跡第 50 次発掘調査報告書、松野遺跡第 42・1・2 次発掘調査報告書、二葉町遺跡第 22 次発掘調査報告書、日暮遺跡第 33・34 次発掘調査報告書、住吉宮町遺跡第 46 次発掘調査報告書、住吉宮町遺跡第 45 次発掘調査報告書、二宮東遺跡第 3 次発掘調査報告書、平成 19 年度神戸市埋蔵文化財年報、神戸市埋蔵文化財分布図、兵庫津遺跡発掘調査概要報告書、神戸で秀吉と出会う、訪ねてみよう神戸の遺跡
神戸市教育委員会	有岡城跡発掘調査報告書 X IV 、伊丹市埋蔵文化財調査報告書
伊丹市教育委員会	あまがさき文化財だより No.2、尼崎市埋蔵文化財遺跡分布地図及び手引き-平成 22 年版-、尼崎市内遺跡発掘調査等、尼崎市埋蔵文化財調査年報平成 16 年度
尼崎市教育委員会	

姫路市立城郭研究室 加古川市教育委員会	城郭研究室年報 vol.20 西山の綾刻地蔵石仏、ハッ仏石仏、地蔵寺の大日種子板碑、長樂寺の六尊石仏、文化財ニュース No.53、野新村1号窯発掘調査報告書、加古川市遺跡分布地図-第3版-
加東市教育委員会	文化財年報- 2007年度- 2008年度-、「世界に一つ! 加東遺産」ガイドブック、加東市内遺跡確認調査概要
川西市教育委員会 高砂市教育委員会 上郡町教育委員会 太子町教育委員会	平成20年度川西市発掘調査報告書 石の宝殿調査報告書 井の羅古墳群(調査編)、山陽道野崩駅跡国史跡指定記念講演会記録集 法隆寺領播磨國鷗莊ガイドマップ、平成17・18・19・20年度埋蔵文化財調査年報、平成21年度埋蔵文化財調査年報
佐用町教育委員会 多可町教育委員会	平成20年度埋蔵文化財調査年報 高岸・五反田遺跡II・安坂・門田遺跡・西安田・森ノ前遺跡・中安田・法輪寺遺跡・極楽寺遺跡北群
神戸市立博物館 赤穂市立歴史博物館 兵庫県立考古博物館	神戸市立博物館年報No.25、研究紀要第26号 仮名手本忠臣蔵の世界 ひょうごの遺跡第75号～第78号、兵庫県立考古博物館NEWS vol.6～vol.7、上北寺森ノ上遺跡、市之郷遺跡II、下加茂遺跡、茂利・宮の西遺跡、南辻遺跡、井ノ上森垣内ノ坪遺跡、宮ノ前向井遺跡、小中追谷口遺跡、山田地区遺跡III、有岡城跡、伊丹郷町V、南歎町遺跡、西延末遺跡、耕地谷古墳群・耕地谷城跡、南通り遺跡、播磨・長賀遺跡II、延吉遺跡、大野遺跡、神野大林窓跡群・寺山古墳群・宮ノ谷古墳群・諜訪城跡、兵庫県古代官道関連遺跡調査報告書I、平成18年度埋蔵文化財調査年報、おおむかしえほん海のお米、史跡茶すり山古墳 大手前大学史学研究所
奈良県	大手前大学史学研究所紀要第8号、龍子三ツ塚古墳の研究
桜井市立埋蔵文化財センター	縦向考古学通信 Vol.2、50cm下の桜井、平成20年度国庫補助による発掘調査報告書、桜井市内埋蔵文化財2006年度発掘調査報告書1、桜井市内埋蔵文化財2009年度発掘調査報告書1、桜井の横穴式石室を訪ねて、原石～石からうまれたモノ～、多武峰涌觸地区の研究、平成21年度国庫補助による発掘調査報告書埋蔵文化財ニュース No.138～No.141
奈良文化財研究所 大和高田市教育委員会 田原本町教育委員会	土塙遺跡群 田原本町文化財調査年報18、道の考古学 奏楽寺遺跡
広陵町教育委員会 唐古・鍵考古学ミュージアム (財)元興寺文化財研究所	果山古墳の木製品 唐古・鍵考古学ミュージアム ミュージアムコレクション Vol.3 平成京左京四条二坊九坪(田村第跡)、曲川遺跡発掘調査概要報告書、熊野灘沿岸地域を中心とした中世・近世葬送墓制の研究、もの・ワザ・情報-古の匠に挑む-
帝塚山大学考古学研究所 天理大学附属天理参考館 奈良大学文学部文化財学科 和歌山県	帝塚山大学考古学研究所研究報告X II 天理参考館報第23号 文化財学報第二十八集
(財)和歌山県文化財センター	西坂降II遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡、(財)和歌山県文化財センター年報2009、(財)和歌山県文化財センター年報2008、野田地区遺跡、田辺城下町遺跡、垂井女房が坪遺跡・野口遺跡・北馬場遺跡・柏原遺跡・百合山古墳群・フィールドミュージアムかせ田の莊-紀ノ川・水の駅編・地宝のひびき-和歌山県内文化財調査報告会-資料集、公開シンポジウム寺を造る-北山庵寺を支えた古代の技術-発表要旨集、公開シンポジウム 和歌山平野の集落遺跡-弥生時代から古墳時代へ-資料集、和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報-平成20年度(2008年度)-平成21年度有田川町埋蔵文化財調査年報、旧吉備中学校校庭遺跡第4次発掘調査
有田川町教育委員会	

鳥取県	
(財) 鳥取県教育文化財団	坂長前田遺跡
(財) 米子市教育文化事業団	米子市内遺跡発掘調査報告書、埋蔵文化財調査室年報 11、日久美遺跡 X III、淀江町平岡上向山遺跡、博労町遺跡
(財) 鳥取市文化財団	文化財団ニュースレター 創刊号
鳥取県埋蔵文化財センター	調査研究紀要 3、青谷上寺地遺跡 11、青谷上寺地遺跡発掘調査研究年報 2009、青谷上寺地遺跡出土品調査研究報告 5 骨角器（1）、青谷上寺地遺跡の建築部材、豊成神上原遺跡・豊成上金谷峰遺跡・倉谷荒田遺跡・松河原上奥田第 3 遺跡、西坪上高尾原遺跡・西坪下馬駄ヶ峰遺跡・倉谷西中田遺跡、樋口西野末遺跡、下市天神ノ峯遺跡、本高弓ノ木遺跡（1 区～3 区）
鳥取県教育委員会	松原古墳群 II・松原小奥遺跡・本高古墳群
大山町教育委員会	東坪寺ノ上遺跡・退休寺第 1 遺跡・大山寺僧坊跡 E-32 区、文殊領遺跡発掘調査報告書 I、文殊領遺跡発掘調査報告書 II、下市光石ノ峰遺跡、町内遺跡発掘調査報告書 II、長田大新田ノ二遺跡
八頭町教育委員会	奈免羅・西の前遺跡 II
島根県	
島根県埋蔵文化財調査センター	ドキ土器まいぶん No.49 ～No.51、山陰の近世・近代遺跡、古代文化の郷出雲 No.9、石見路の言伝、埋蔵文化財調査センター年報 18、志谷Ⅲ遺跡・安神本遺跡、堂々ノ内 I 遺跡・堂々ノ内 II 遺跡・堂々御跡・庄遺跡・深坪遺跡・山持遺跡 Vol.6 (4.6.7 区)、堂ノ上遺跡・砂原車廻古墳群・砂原 I 遺跡・梨ノ木坂遺跡・庵寺古墳群・庵寺遺跡 II・大志戸 II 鉛鉈分析篇・久城東遺跡・若葉台遺跡・久城西 I 遺跡・久城西 II 遺跡・原浜遺跡・道休畠遺跡・湯里天神遺跡・牧原 II 遺跡・宇福遺跡・山持遺跡 Vol.7 (6 区)、金クソ谷遺跡 4 区・一の谷古墳・山辺遺跡・駿切遺跡・米坂古墳群・貝先遺跡ほか・莉捨古墳・西川津遺跡・近世山陰道推定地（力石地区・荒磯谷地区・原地区・カモト地区）・片良ヶ平遺跡ほか・堂ノ上遺跡
島根県古代文化センター	王墓誕生・出雲に王が生まれた時、古代文化研究第 16 号、出雲国の形成と国府成立の研究
(財) 松江市教育文化振興事業団	石流遺跡発掘調査報告書・新宮遺跡発掘調査報告書・石の堂遺跡発掘調査報告書・来美南遺跡・池平山城跡・埋蔵文化財課年報 X III 平成 20 年度、米塚遺跡・西後遺跡
益田市教育委員会	沖手遺跡
浜田市教育委員会	島根県浜田市遠跡地図 II（金城自治区）・七瀬瀬 II 遺跡
出雲市役所	網屋浜台場跡・河下台場跡・平成 21 年度出雲市文化財調査報告書・神門寺付近遺跡 II・田儀櫻井家たから製鐵遺跡発掘調査報告書・出雲弥生の森博物館展示ガイド・矢野遺跡
津和野町教育委員会	上ノ山の水室・津和野城下町遺跡 4・5 殿町地区・津和野町遺跡地区（日原地区）・大麻遺跡
飯南町教育委員会	五明田遺跡（III）・長屋谷遺跡・寸後谷遺跡
島根県立八雲立つ風土記の丘資料館	八雲立つ風土記の丘 No.200・201 合併号～No.204
島根大学法文学部考古学研究室	普段寺古墳群 II
島根大学ミュージアム	SHIMANEDAI MUSE Vol.3、島根大学旧奥谷宿舎・島根大学ミュージアム年報平成 21 年度、島根大学構内遺跡第 14 回調査（橋原手地区 3）
岡山県	
岡山県古代吉備文化財センター	所報告備第 48 号～第 49 号・八絃古墳群・姫本路古墳群・上東中嶋遺跡・伊福定国前遺跡・姥ヶ丘遺跡 2
津山弥生の里文化財センター	津山城より No.14・山横池 A 遺跡・下石屋遺跡・県営は場整備事業（久米地区）に伴う試掘確認調査報告
岡山市埋蔵文化財センター	岡山市埋蔵文化財センター研究紀要第 2 号・吉備津杉尾西遺跡・吉備津奥田遺跡・岡山市埋蔵文化財センター年報 9

井原市文化財センター 岡山県教育委員会 備前市教育委員会 笠岡市教育委員会 総社市教育委員会 瀬戸内市教育委員会 赤磐市教育委員会 真庭市教育委員会 勝央町教育委員会 津山郷土博物館	井原市文化財センター「古代まほろば館」年報 1 岡山県埋蔵文化財報告 40 「掘る」～捲鉢からみえる中世の社会～ 大飛鳥の遺跡と砂洲 総社市埋蔵文化財調査年報 19、法蓮広堂山古墳群 史跡寒風古窯跡群、福里遺跡・大谷口遺跡・北池向遺跡・山田辻畠遺跡 県指定史跡田原用水水路橋（石の懸橋）、備前国分寺跡 2 高田城・田楽城、大旦遺跡発掘調査報告 小池谷遺跡・小池谷古墳群 津山松平藩町奉行日記十八、博物館だより No.64～No.67、平成 20 年度津山郷土博物館年報、津山城だより No.12～14、平成 21 年度津山郷土博物館年報、廣瀬臺山-「白雲餘影」とその後- 倉敷考古館 倉のうちそと六十年 倉敷市立自然史博物館報 19、倉敷市立自然史博物館展示解説書 美術館ニュース No.89～No.90 鹿田遺跡 6 - 第 13・15 次調査、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2009、 津島岡大遺跡 20 第 32 次調査- 鬼ノ城と吉備津神社、高梁川流域を科学する Part1 - 岡山理科大学紀要第 45 号 A 自然科学、岡山理科大学紀要第 45 号 B 人文・社会科学、 自然科学研究所研究報告第 35 号、岡山理科大学紀要第 46 号 B 人文・社会 吉備地域における巨大古墳形成過程の研究 岡山市立オリエント美術館 倉敷市文書館（アーカイブス）研究会 岡山県遺跡保護調査団事務局 高梁川流域連盟
広島県 (財) 東広島市教育文化振興事業団	安芸西条 四日市遺跡-その調査成果と未來-、溝口 4 号遺跡発掘調査報告書、溝口 4 号遺跡発掘調査報告書（岡版編）、山口遺跡発掘調査報告書、御廷遺跡発掘調査報告書 I 、泥田城跡発掘調査報告書、東田遺跡発掘調査報告書、黄幡 1 号遺跡発掘調査報告書、杵原 1 号遺跡発掘調査報告書、磯松池遺跡発掘調査報告書、貞松遺跡発掘調査報告書、平成 16 年度東広島市文化財年報 広島城跡裁判所地点発掘調査報告書、三谷遺跡、別所古墳、広島城跡八丁堀地点発掘調査報告書
(財) 広島市文化財団 (財) 広島県教育事業団	中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 (9) 、ひろしまの遺跡第 103 号～第 105 号、浅谷山西古墳・浅谷山 1 号遺跡・小深遺跡、曾川 1 号遺跡 (L・M 地区) 、年報 3 ～ 6 、中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 (12) ～ (16) 平成 20 年度広島県内遺跡発掘調査（詳細分布調査）報告書 春日池の石數上手橋発掘調査報告書- 2009 年度-、福山市内遺跡発掘調査概要 IV 、福山城跡、大塚古墳
庄原市教育委員会 尾道市教育委員会 広島県立歴史博物館 広島県立歴史民俗資料館 広島大学文学部考古学研究室	庄原市文化財年報 3 、深石遺跡、広島県庄原市高野町所在の動植物遺存体包藏地の調査 尾道市内遺跡 2008 年度 広島県立歴史博物館ニュース第 83 号～第 85 号 古代の出来と吉備の名宝-青銅と鉄と玉と-、知ろう語ろうやってみよう「古代のたら製鉄」-記録集、年報 第 29 号-平成 20・21 年度-、30 年のあゆみ、聞いて・見て・舞って「広島伝統の舞」-活動報告書- 帝釈峠遺跡群発掘調査室年報 X X IV

山口県	
山口県埋蔵文化財センター	陶けん第 23 号、掘っちょる山口 2009-土の中にはドキドキがいっぱい-、椿遺跡、上り熊遺跡Ⅲ、朝田墳墓群Ⅳ 史跡仁馬山古墳 あやらぎ No.21、下関市立考古博物館年報 15、研究紀要第 14 号、「もったいない」の考古学-資源利用の知恵と工夫- 山口大学埋蔵文化財資料館年報-平成 19 年度-、見島ジーコンボ古墳群第 154 号 墳出土資料調査報告 唐橋札場跡
下関市教育委員会	
下関市立考古博物館	
山口大学埋蔵文化財資料館	
萩市歴史まちづくり部	
徳島県	
(財) 徳島県埋蔵文化財センター	徳島県埋蔵文化財センター年報 vol.19 ~ vol.20、庄(庄・藏本)遺跡、名東遺跡、南庄遺跡、觀音寺遺跡(V)、徳島城下町跡、安宅 2 丁目地点、末石遺跡、中庄東遺跡、宮ノ本遺跡 I・大原遺跡、庄境遺跡 年報 2
徳島大学埋蔵文化財調査室	
香川県	
香川県埋蔵文化財センター	弥生時代の大集落-旧練兵場の発掘調査-、香川県埋蔵文化財センター年報平成 21 年度、鹿伏・中所遺跡Ⅲ、旧練兵場遺跡Ⅱ、讃岐国奇の時代、研究紀要Ⅶ 埋蔵文化財試掘調査報告書 X XII Ⅲ、香川県文化財年報平成 20 年度 押郎庵寺、高松市内遺跡発掘調査概報-平成 21 年度国庫補助事業-、相作牛塚古墳、奥の坊遺跡群Ⅳ、宗宮高遺跡 普通寺市内遺跡発掘調査調査事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 12 丸亀市内遺跡発掘調査報告書 さぬき市内遺跡発掘調査報告書 宗吉瓦窯跡調査・保存整備報告、三豊市内遺跡発掘調査報告書 林が谷池窯跡、小坂池 1 号窯跡・小坂池 2 号窯跡・小坂池 3 号窯跡 香川県立ミュージアムニュース vol.9 ~ vol.12、第 57 回日本伝統工芸展出品目録
香川県教育委員会	
高松市教育委員会	
普通寺市教育委員会	
丸亀市教育委員会	
さぬき市教育委員会	
三豊市教育委員会	
綾川町教育委員会	
香川県立ミュージアム	
愛媛県	
(財) 愛媛県埋蔵文化財調査センター	紀要愛媛第 9 号、愛比充-平成 21 年度年報、道後町遺跡 3 次、本郷遺跡、旧目見寿院跡、官ノ上遺跡・下石床遺跡、岩倉城跡 2 次、北斗門遺跡 国宝伊予国奈良原山経塲出土品、高地巖谷 1 号墳、鄭桜井堀遺跡-第 5・6・7 次調査-矢田大出口遺跡-第 3 次調査-新谷古新田遺跡他、市内遺跡試掘確認調査報告書 X XII 、市内遺跡試掘確認調査報告書 X XII 、史跡能島城跡-平成 20 年度郭 II・III 南部平坦地調査報告書-、史跡能島城跡-平成 20 年度能島東部海岸整備工事報告書- 愛媛大学埋蔵文化財調査室年報-2008 年度-、愛媛大学埋蔵文化財調査室年報-2009 年度-
今治市教育委員会	
愛媛大学埋蔵文化財調査室	
高知県	
(財) 高知県文化財団	伏原遺跡 I・上ノ村遺跡 I・原遺跡、クノ丸遺跡、ひびのきサウジ遺跡Ⅲ、史跡高知城跡、天神溝田遺跡 I・伏原遺跡 II・高知県埋蔵文化財センター年報第 19 号 埋文こうち第 23 号～第 24 号、高知県埋蔵文化財年報 7 ～ 8 土居遺跡 岡豊風日第 70 号～第 74 号 朝倉古墳発掘調査概要報告書 II 、弥生・古墳時代における太平洋ルートの文物交流と地域間関係の研究、坂ノ松古墳測量調査報告書
高知県教育委員会	
南国市教育委員会	
高知県立歴史民俗資料館	
高知大学人文学部考古学研究室	
福岡県	
福岡市埋蔵文化財センター	福岡市埋蔵文化財センター年報第 28 号 横隈狐塚遺跡 7 、大板井遺跡 24 、三沢北中尾遺跡 2 地点、上岩田遺跡 II 筑後国府通信 vol.7 、久留米市文化財保護課年報 vol.6 、筑後国府跡-第 230 次調査-、鶴原侍屋敷遺跡-第 12 次調査-、久留米市埋蔵文化財調査集報 X II 、義導
小郡市埋蔵文化財調査センター	
久留米市埋蔵文化財センター	

(財) 北九州市芸術文化振興財團	寺境内遺跡・第1・4次調査、太□原遺跡第1次調査、二本木遺跡群Ⅶ、久留米市城島町遺跡等詳細分布調査報告書、平成21年度久留米市内遺跡群、筑後国府跡-平成21年度発掘調査報告・概況報告-
福岡県教育委員会	埋蔵文化財調査室年報26、研究紀要-第24号、蒲生石棺群、古立東遺跡1(1・3区)、古立東遺跡2(2区)、小倉城三ノ丸跡第7地点、カキ遺跡第5地点(2区の調査)、黒崎城跡11(18・26区)、長浜遺跡第2地点3、山田遺跡、伊崎遺跡(4区・5区)、恒見遺跡、水野小西田遺跡3、長野尾登遺跡第2地点(A・B区)、長野コイトヲ遺跡第2次調査、丸ノ内遺跡第5次調査、小倉城三ノ丸跡第6地点2、小倉城三ノ丸跡第6地点3、日の出町遺跡第2地点、室町遺跡第11地点、能行遺跡第3地点、今村遺跡
福岡市教育委員会	観音山古墳群平石Ⅲ群、矢加部町屋敷遺跡Ⅱ、菅船津江頭遺跡Ⅱ、藤の尾塙添遺跡Ⅲ、特別史跡大野城跡整備事業V、山門牛島遺跡、本吉遺跡、山門ガラン遺跡、福富小郷遺跡D地点、竹重遺跡3、福岡県埋蔵文化財発掘調査年報-平成20年度。
北九州市教育委員会 大野城市教育委員会	福岡市埋蔵文化財年報vol.23、元岡・桑原遺跡群17、草場古墳群2、比恵57~59、ヒワタシ遺跡1、都地遺跡5、菱野C遺跡7、元岡・桑原遺跡群16、博多134~140、箱崎39~41、羽根戸原B1、野芥大敷2、名島城跡3、市道戸切通線に伴う発掘調査報告書2、那珂56~57、笠抜遺跡2-第3次調査報告-/大橋E遺跡-第11次調査報告書、香椎A遺跡3、蒲田水ヶ元遺跡2、蒲田部木原10、コノリ遺跡群4、山王4、四箇古川遺跡1、但馬B1、拾六町ツイジ2、田村16、今宿五郎江8、有田・小田部47~48、板付10、入部XIII 上ん山古墳、小倉城三ノ丸跡第2地点
筑紫野市教育委員会	大野城市の文化財第42集日本の郵便制度と禮節頃郵便局、村下遺跡II、乙金地区遺跡群II、後原遺跡II
春日市教育委員会 豊前市教育委員会 飯塚市教育委員会 福津市教育委員会 うきは市教育委員会 大刀洗町教育委員会 筑前町教育委員会 北九州市立自然史・歴史博物館 九州歴史資料館	名越古墳・渠水墳墓群、太宰府条坊跡第129次発掘調査、太宰府条坊跡第144次発掘調査、太宰府条坊跡第183次発掘調査、立明寺地区遺跡-C地点第1次発掘調査、松原遺跡、太宰府条坊跡第166次発掘調査、太宰府条坊跡第186次発掘調査 門田遺跡、御陵遺跡2、須玖園本遺跡3、平成20年度春日市埋蔵文化財年報 大村天神林遺跡 飯塚市内埋蔵文化財試掘・確認調査報告書(1)、小正西古墳 手光於經遺跡第2地点 三泰大碇遺跡2、うきは市遺跡等詳細分布調査報告書 下高橋遺跡Ⅳ、高橋井手ノ上遺跡 筑前町内遺跡分布地図 北九州市立自然史・歴史博物館研究報告B類歴史第7号 九隈だより No.31～No.32、九州歴史資料館研究論集35、九州歴史資料館年報-平成21年度。
芦屋歴史の里 歴史民俗資料館 柏原町立歴史資料館 福岡大学人文学部考古学研究室	芦屋歴史の里年報第9号～第10号 大隈丸山古墳・大隈丸山曼茶羅碑版、阿恵原口遺跡第2地点、新大間池遺跡 日韓集落の研究、日韓集落研究の新たな視角を求めてII、福岡大学考古資料集成3
佐賀県 佐賀市教育委員会	佐賀市埋蔵文化財確認調査報告書-2007年度-、藤木四本杉遺跡IV-15区・18区の調査-、藤木遺跡I-2～5区の調査-、西中野遺跡VII～VIII、西中野遺跡X～XII、一ノ屋敷遺跡Ⅲ、藤木一本杉遺跡1、西湖遺跡Ⅲ、寺小路遺跡、印輪遺跡、五龍神社遺跡、佐賀城跡-4・5区の調査- 市内遺跡確認調査概要報告書II、神埼の城館跡と環濠集落、野田遺跡・利田柳遺跡、利田黒木遺跡、田道ヶ里田二本松遺跡、城原一本松遺跡
神埼市教育委員会	

長崎県	
長崎県教育委員会	門前遺跡Ⅲ・武辺城跡Ⅱ、郷土の遺跡展-発掘が明らかにした知られざる歴史-
佐世保市教育委員会	佐世保の洞穴遺跡Ⅱ、市内遺跡発掘調査報告書
南島原市教育委員会	龜の首遺跡
大分県	
日田市埋蔵文化財センター	寺ヶ迫遺跡、求来里の遺跡、吹上、求来里の遺跡Ⅰ、求来里の遺跡Ⅱ、求来里の遺跡Ⅲ、史跡ガランドヤ古墳、鍛冶屋廻り遺跡、中川原遺跡、葛原遺跡6次・大行事遺跡2次、祇園原遺跡Ⅱ、慈眼山遺跡7次
大分市教育委員会	大分市埋蔵文化財調査報告書 2008年度、下郡遺跡群Ⅰ、猪野遺跡、横尾遺跡3、大道遺跡群3、下郡遺跡群Ⅱ、大友府内15、大友府内16、城原・里瀧跡
中津市教育委員会	中津城跡1、下宮永カタマ地区・中津城下町遺跡竹下義兵衛屋敷跡・長者屋敷官衙遺跡、大勢遺跡、加来屋敷遺跡
宇佐市教育委員会	市内遺跡発掘調査概報18、川郡遺跡 南西地区墳墓群、市内遺跡発掘調査概報17、妙楽寺経塚、瓦塚遺跡
九重町教育委員会	釣野千軒遺跡Ⅱ、九重町歴史資料館年報 2010
大分県立歴史博物館	おおいた歴博 No.28 ~ No.31
宮崎県	
宮崎県埋蔵文化財センター	宮崎県埋蔵文化財センター一年報第14号、銀座第1遺跡（五次調査）、前ノ田村上第2遺跡（二次・三次）、尾花A遺跡Ⅱ、野地久保山遺跡・森ノ上遺跡、家田古墳群・家田城跡、板平遺跡（第3・4次調査）、伝石第1遺跡、平山下原遺跡、内野々遺跡・内野々第2・第3遺跡・内野々第4遺跡、跡江坂ノ下遺跡、梅北針谷遺跡、篠女木遺跡、南久保山小堀町遺跡、東光寺遺跡、埋蔵文化財通信ひむか第13号
日南市教育委員会	平成21年度日南市内遺跡発掘調査概報
宮崎市教育委員会	史跡生日5号 墳復元整備報告書、生目古墳群Ⅰ、史跡移佐城跡、下北方塚原第1遺跡
都城市教育委員会	中尾下遺跡、都城市内遺跡4、王子原遺跡・上安久遺跡、永田鹿東遺跡
鹿児島県	
鹿児島県立埋蔵文化財センター	埋文だより第52号～第54号
鹿児島大学埋蔵文化財調査室	農学部開学100周年事業 地中からみた農学部のあゆみ、鹿児島大学構内遺跡郡元団地D・7・8区 郡元団地D・E・5区ほか
沖縄県	
沖縄県立埋蔵文化財センター	首里城跡-京の内跡発掘調査報告書(II)～、沖縄埋文研究6、普天間飛行場内遺跡地図(中間報告)、沿岸地域遺跡分布調査概報(II)、中城御殿跡-原県首里城公園内御殿発掘調査報告書(I)～、首里城跡・真珠道跡、嘉良嶽東貝塚・嘉良嶽東方古墓群、首里城跡
宜野湾市教育委員会	市内埋蔵文化財調査報告書
沖縄県立博物館・美術館	ハナンダガマ遺跡発掘調査報告書、武芸洞遺跡発掘調査概要報告書
その他	
全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会	公立埋文協会報第44号～第45号、発掘調査のてびき-集落遺跡発掘編／整理・報告書編-
全国埋蔵文化財法人連絡協議会	全国埋文協会報No.78～No.79
文化環境研究所	カルチベイトNo.36～No.37、文環研レポート第30号～第31号
間壁忠彦	復刻増補倉敷今昔写真帳
田辺 進	郷内の史跡探訪
大谷壽文	龍王山回廊をゆく、歴史のまち下津井II、下の町今昔、児島の歴史 彩影
谷山雅彦	鬼ノ城 魁る古備の古代山城
日野浦弘幸	福山合戦
(株)バスコ	広島城跡上八丁堀地点
(株) 日開調査設計コンサルタント	平安京右京二条二坊八町跡

附編

湾戸遺跡出土の須恵器

湾戸遺跡は児島の西岸でもやや北部に位置している。現在では眼前に水島工業地帯を望む地であるが、古墳時代には砂洲のひろがる海岸線で製塩を業とする人々が暮らしていたと考えられている。しかし、これまで発掘調査は行われておらず、製塩土器片等が採取されている以外は不明な点が多い。

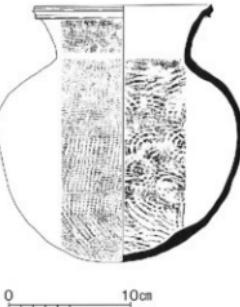
図示した資料は湾戸遺跡内にあたる倉敷市福山町福山175番地から出土した須恵器壺である。昭和37年3月頃、砂地の畑でゴボウを植える作業中に発見したそうである。周辺には他にも土器のかけらがあったが、完全な形のものはこれ一つであったという。その後、発見者である岡部 学氏が大切に保管していたものである。このたび岡部氏のご厚意により、これを実測する機会を得たので、内容が不明確な湾戸遺跡の実態を示す良好な資料の一つとして紹介することとした。

胴部に少しひびがはいっているが、その他は完形で、器高21.2cm、小形の壺である。口径は14.5cm、頸部から上に向かって大きく広がり、内面は回転ナデ、外面にはカキメ調整が施されている。口縁部外面は上方に浅い沈線をめぐらせ、下方は断面を外側につまみ出すようにしている。また、口縁端部も内面をナデて上につまみ出すように仕上げている。体部の最大径はやや上位にあり、20.1cmを測る。体部外面には細かい格子目タタキが全面に施され、その後上半部のみカキメで仕上げられている。内面は体部半ば付近に同心円タタキ、頸部付近と底部はやや弧状を呈する並行タタキが施されている。

焼成は良好で、外面は灰色、内面は青灰色の色調を呈する。胎土には0.5~1mm大の石英・長石粒を含むが全体に精良である。口縁部の特徴などから、時期は陶邑縄年でTK 47~MT 15(5世紀後半~6世紀前半)に属すると考えられる。

児島西岸では6世紀中葉以降、金浜古墳を初めとする横穴式石室が造られるようになり、このことは製塩遺跡の増加とも関連づけられている。しかし、この須恵器壺はこうした様相が現れる以前のものであり、湾戸遺跡付近により古くから人々が居住していたことを示している。

最後になりましたが、資料の公表をご快諾いただき、種々のご教示をいただいた岡部 学氏に厚く御礼申し上げます。
(藤原)



実測図 (S=1/4)



出土地位置図 (S=1/5,000)

印刷仕様

紙 質 表紙：サンマット 160kg (PP 張り)
本文：ニューエイジ 70kg
折込：上質紙 70kg

D T P Mac OS 10.5.8 Adobe InDesign CS3 Adobe Photoshop CS3

使用フォント モリサワ OpenType フォント
(リュウミン L-KL・中ゴシック BBB・太ミン A101・太ゴシック B101：
見出ゴシック MB31・見出しミン MA31・じゅん101)

製 本 無線綴じ

倉敷埋蔵文化財センター年報13
—平成21・22年度—

平成24年3月31日印刷発行

発 行 倉敷市教育委員会

編 集 倉敷埋蔵文化財センター

〒712-8046 倉敷市福田町古新田940番地

Tel 086-454-0600

The Annual Report
Of
Kurashiki Archaeological Center

Volume13 2009・2010



Kurashiki
Archaeological Center

March 2012